

教育委員会会議の概要（令和5年7月臨時会）

- ◆ 日 時 令和5年7月21日（金）午後2時00分から午後7時20分まで
- ◆ 場 所 教育局 第1会議室
- ◆ 出 席 者

教 育 長	福 田 洋 之	出 席
委員・教育長職務代理者	花 渕 浩 司	出 席
委 員	梅 田 真 理	出 席
委 員	川 又 政 征	出 席
委 員	後 藤 由 起 子	出 席
委 員	山 田 理 恵	出 席
委 員	庄 司 弘 美	出 席

◆ 会議の概要

1 開 会

2 議事録署名委員の指名 山 田 委 員

3 協 議 事 項

（1）令和6年度使用の仙台市立義務教育諸学校教科用図書の採択について

（教育指導課長、教育センター担当指導主事 説明）

【道徳】

教 育 長 特別の教科「道徳」について協議を行う。事務局から、学習指導要領の目標等について説明をお願いします。

教育指導課長 担当指導主事からご説明する。

指 導 主 事 小学校「道徳」について説明する。

小学校「道徳」では、学習指導要領第1章総則に記される道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的、多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てることを目標としている。

協議会において取りまとめた小学校「道徳」の全発行者の特長は、別紙資料1報告の別紙1の29ページ、30ページにお示ししている。

主な特長について、まずA者は、道徳ノートを活用して、多面的に自己を見つめるなどしながら、言語活動を充実させることができるよう工夫されているということで

ある。

次にB者は、全学年で問題解決的な学習が取り入れられており、また役割演技や動作化などの体験的な学習も多く、児童が意欲的に取り組むことができるように配慮されているということである。

次にC者は、各教材の最後に三つの視点で自己を振り返ることができ、学んだことを思い起こしたり、学びを深めることができるように配慮されているということである。

次にD者は、自分につなげて考える「心のパスポート」が学習を深め、考えさせるのに効果的であり、物事を多面的、多角的に考えさせやすいように工夫されているということである。

次にE者は、「学びの足跡」に、毎時間の授業の記録を付けることにより、児童が1年を通して自分の成長を振り返りやすいように工夫されているということである。

次にF者は、「考えるヒント」には、道徳で使う言葉やディベートなどの方法が示されており、学びの土台としての話し合い方、考え方などが分かるように配慮されているということである。

教 育 長 ただいまの事務局の説明について、ご質問等あればお願いします。

(質疑なし)

教 育 長 それでは、委員の皆さんからそれぞれの発行者の教科書見本本についてのご意見をいただきたい。

山 田 委 員 どの教科書も、学習と指導に関すること、自己を見つめ、物事を多面的、多角的に捉え、自己の生き方について考えを深めるというところに、非常に分かりやすく配置をされている教科書だと思った。

A者は、最初に「道徳の学び方」というのがあり、「気づく」、「考える・深める」、「見つめる・生かす」という段階で、自主的な学びと対話的学びを深めることができるようになっている。教科書とノートの2分冊となっていて、ノートに自分の考えを記載することで、自分の考えを整理して深めることができるように工夫されていると思った。また、「心のベンチ」に、著名人の言葉、平和、防災、情報モラル、いじめなど、各学年に応じたコラムや情報が出ていた。

B者は、各学年に応じたお話を取り上げて、児童が自分から感じて考えることを促す内容になっていると思った。実在の人物の生き方のエピソードや、身近な事例など、様々な教材文がそろっていた。全学年に、いじめ、命、情報モラル、防災などに関する事例が入っていて、発達段階に応じた例とか、考える力を育成するようになっている。挿絵も様々なタッチのものがあって、鮮明で見やすく、低学年には絵本と同じような感覚で読みやすい教科書だと思った。

C者は、低学年は絵本を読むように、身近な問題を自分のこととして考えるということを促して、年齢が上がるにつれて生活全般や家族、命、地域、世界など様々なことを主体的に考えられるような流れになっている。「考えよう」、「深めよう」で、それぞれの事例に対して自分のこととして考えて、どうすべきか相手の気持ちを考えることを促す資料になっている。こちらも漫画風であったり、絵本のようなもの、多彩なタッチの挿絵などが鮮明で読みやすく、あと写真の説明もあって分かりやすいと思った。

D者は、「つながる私 広がる私」で、自分のことと周りのこと、他人、命、自然、

社会とどうつなげて考えるかという教材になっていて、「考えよう」で主体的に考え、「深めよう」でより深く考えるという流れになっていた。表紙をめくった見開きは、各学年、美しい写真と詩になっていて印象深く、1年間の学びも見開きでまとめられていて、きれいで見やすいと思った。巻頭に「道徳とは自分を見つめる時間です」といったフレーズがあり、このフレーズから、主体的な学び、自分を見つめ深めることに主眼が置かれている教科書だと特に感じた。

E者は、考え方の手順、話し合いの方法、ノートの使い方など、学習の仕方についての説明が最初に入っている。教材の量が様々で、いろいろな角度から学べると感じた。また、見開きページの左側の同じ場所に「かんがえよう」「まとめよう」「ひろげよう」という項目が毎回出てきて、章ごとに自主的に考えさせて、皆で話し合う内容になっているのがよいと思った。

F者は、教材を通じて自分が感じる主体的な学びだけではなく、それについて友達と話し合う対話的な学びというのが各章で重視されていると思った。自己紹介であったり、自分の気持ちを伝えること、人の気持ちを考えることという項目が比較的多く出てくる教科書だと思った。それに応じて、友達と話し合うためのコツや、自分の考えや気持ちの表し方など説明されていて、各章で問題解決のための話し合いがスムーズに進むように配慮されていると思った。また、途中で少し哲学的な視点の漫画が入っていて、これが面白いと感じた。また、クジラとプラスチックなどプラゴミの説明もあり、自然を大切にしている内容になっていると感じた。

庄 司 委 員 A者は、「生きる力」というのが表紙のサブタイトルになっていて、タイトルが大変良いと思った。「道徳のとびら」には、よりよく生きるために大切なことということで、「生命、自然」、「みんな」、「周りの人」、「自分」という四つに分かれていて、学習に取り組む前の大切なことが示されていて大変分かりやすいと思った。また、別冊の道徳ノートの利用で、自由記述や絵などで自分の考えをまとめることができる工夫があり、それも大変良いと感じた。

B者は、1年生では「えがおも、ことばだよ」や、6年生では「どんな自分も、ほんとうの自分」というように、表紙を開くと見開きで温かくなるようなメッセージがあり、とてもよいと思った。また、五つのユニットで、心の力持ちになろうという、「安心・安全」、「情報モラル」、「『いのち』について」、「『いじめ』について」、「『じぶん』について」といった内容を繰り返すことで、自他ともに大切にできる心が育まれる工夫があると感じた。

C者は、教科書に「はばたこう明日へ」のサブタイトルがある。特に大切にしているテーマは目次で色付けがあり、各学年、命や人権を尊重する心が育まれるような工夫が感じられた。「考えよう」や「深めよう」、「つなげよう」では、考えたり人の意見を聞いて理解が深められたりするようになっていてと思った。

D者は、「心のパスポート」では、学習したことをもとに自分の考えをまとめ、また、「つなげよう広げよう」では、1年間を通して振り返り、自分の生き方、考え方をまとめられるような工夫があると感じた。生命の尊さや親切、思いやりなど、いじめ防止に関するところを多く取り上げているのも良いと思った。

E者は、「ゆたかな心」というのがサブタイトルで、全教科書に載っている。見開きで、「道徳の時間はこんな時間です」で始まりが書いてあるのだが、「自分を見つめ深く考える」、「さまざまな面から、いろいろな見方をする」、「問いを見つける」、

「へこんでも立ち直る」とあり、最後のへこんでも立ち直るという言葉が、たくましく生きる力、メッセージになっていて、とても良いと感じた。また、「いじめを生まない心」が各学年にあり、いじめ防止につながる学びが学年ごとに深められるように工夫があって良いと思った。

F 者は、「きみがいちばんひかるとき」がサブタイトルで、全ての教科書に書いてある。「道徳が始まるよ」では、これから1年間の学習の見通しがあり、大変イメージしやすく、主体的に取り組める工夫があると感じた。また、シールや記述で自己評価をし、自分の成長を見つめながら無理なく進められるよう工夫があるとも感じた。家の人と一緒に考えてほしいことというところ、アイコンがあって、自分自身で考えること、友達と考えること、他にこうやって家の人と一緒に考えることというのがあるのも、課題として大変良いと思った。

花 淵 委 員 私も、各者非常にすばらしい教科書だと感じた。児童の発達段階に応じて、それぞれ取り上げる教材もすばらしいと感じた。

A 者は、児童の考えを深めたり広げたりする「心のベンチ」があり、これは他教科との関連が意識されていて、良いと思った。また、「ぐっと深める」というところでは、体験的、問題解決的な学習に加えて、それ以外の多様な学習活動を展開させるように工夫されていてすばらしいと思った。

B 者は、全学年で東日本大震災について扱っていて、これは地域に密着した題材であり、すでに小学校では、震災を知らない児童が在籍していることもあり、風化をさせないという意味でも大切な視点ではないかと思った。それから、問題解決的な学習と体験的な学習を取り上げた教材があって、ロールプレイや動作化など様々な学習方法が提示されていて、座学ではなく、いわゆる実際に体を動かしながら道徳を学ぶという意味でも大変良い視点が示されていると思った。

C 者は、東日本大震災について、震災を様々な価値項目と結び付けて提示しているところが、すばらしい視点だと思った。学びのガイダンス、自己評価、学習の振り返りなどがあって、これで1年間の成長が見てとれるということもあり、先生方にとってはこれをもとに評価することができるのではないかと思った。

D 者は、羽生選手や荒川選手等、宮城や仙台に関わる題材、人物や物を多く取り上げていて、良いと思った。内容項目の異なる二つの教材を連続し、学ぶユニットとして設定しており、命ユニット、多様性ユニット、キャリアユニットというような形で、面白いと思った。

E 者は、東日本大震災関連で、単なる震災や震災からの復興にとどまらず、八戸のカモメや福島でのおにぎりのことなど、震災から12年経過したということ意識したつくりになっていると思った。生命、自然、いじめ、情報モラル、人権共生、安全健康というような現代的な課題を取り上げているところも大変すばらしいと思った。

F 者は、1時間ごとに振り返りを記録し、シールを貼る活動を通して、1年間の学びが可視化されるように工夫してあった。児童はシールを貼る活動が好きだと思うので、面白いと思った。また、児童の学びを深める考えるヒントや、命の尊さを実感できる、感情、命というようなコーナーを設けていて、これもすばらしいと思った。

梅 田 委 員 どの発行者も「道徳」で大切なものをどう教えていくかということ丁寧に考えて単元が配列されていると感じた。自分に関わることや自分と相手、自分と社会、あるいは自分と命などというようなことをバランスよく取り上げられていたのではない

かと思う。

A者は、全学年、よりよく生きるために大切なことというテーマの下、命と自然、みんな、周りの人、自分といった単元がバランスよく配置されていた。生きる力というのは、全学年のもう一つのテーマとなっていて、とてもよいと感じた。また、「ぐっと深める」というページが年間5回ぐらい配置されていて、特にその部分では、深く児童に考えさせることができるように中身が工夫されていたと思う。「道德の学び方」については、低学年でも分かりやすいように学び方が示されており、また、「道德ノート」は、低学年はワークブックとして活用でき、高学年は学んだことをまとめられるような工夫があったと思う。「心のベンチ」というところでは様々な情報も掲載されていた。

B者は、表紙には学年ごとのテーマがあって、巻頭詩では、友を思う、力を合わせる、自分を見つめるなど、その学年に応じた伸ばしたい力が示されていた。いじめ、情報モラル、命などの五つのユニットについては、私もとても良いと感じた。また、話し合い方を取り上げたページが各学年にあって、話し合いで深めていくような活動についても重視されていたと思う。この発行者は、イラストが他の発行者と比べて独特で、一見して目を引く表紙、裏表紙のイラストだと感じた。

C者は、「はばたこう明日へ」が全学年を通してのテーマで、目次の後に道德で学習することが色別に示されているのが分かりやすいと思った。いじめ、情報、命については、特に重点項目として挙げられているのも良いと感じた。課題解決を目指す単元や、実際に寸劇等で体験する単元がバランスよく配置されていて、児童が体験的な学びができるよう工夫されていたと思う。単元終わりの左ページに、「考えられた」、「気づいた」、「分かった」等のチェック項目があり、児童が学びを振り返ることができるようになっており、巻末にも学んだことをまとめるカードがあって、自分の学びを振り返ることができるような工夫があった。また、光沢のある白いきれいな紙で、見やすさが工夫されていると感じた。

D者は、冒頭見開きで、美しい写真とともに各学年の学びを表す文章が示されていて、5・6年生は格言になっているが、このようにすることで、児童が学びの方向性をつかみやすくなっていると思う。また、心の四つの扉として、道德で大切にすべき自分と社会など、自分との関わりをととても重要視していると感じた。今、「自分」と言ったが、他の部分にも「私」が中心になるような項目、単元が配置されていて、「私のこと」、「あなたと私」、「社会と私」、「命や自然と私」というように、自分を中心に考えながら、児童がより考えを深めていけるような工夫がされていたと思う。特に、高学年のテーマが、心を鍛え自分らしく輝こうという示し方をされていて、自分らしさについて考えることが大切にされており、とても良いと感じた。また、「心のパスポート」のページでは、世界や社会に目を向けられるような内容が掲載されていた。

E者は、冒頭の目次の後、全学年共通で「道德の学び方」が示されていた。同じ学び方を6年間繰り返していく中で深められ、そうした積み重ねを考えた系統的な指導ができるよう工夫されていると思う。「豊かな心」というのがテーマで、「自分を見つめ深く考える」「様々な面からいろいろな見方をする」「問いを見付ける」「へこんでも立ち直る」の領域が示されており、特にこのレジリエンスとも言える「へこんでも立ち直る」については、各学年に応じた内容が1ページずつ掲載されていて、短

いがとても重要だと感じた。全学年の巻末に「学びの足跡」として学んだことをまとめるシートがあり、これも良いと思った。

F者は、「きみがいちばんひかるとき」というのが全学年共通したテーマで、見開きにはその学年に応じた詩があるのも、児童にとってどんなことを学んでいくのかイメージしやすい工夫だと感じた。1年生以外では、「道徳で学ぶとびら」というものが示されていて、何を大切に学んでいくかということが分かりやすく解説されていると感じた。「話し合い活動のコツ」というものが2年生から6年生で示されていて、自分の意見を言うだけでなく、人の話を聞くことの大切さが説明されている。「こころん」「きらりん」「もやもやん」という三つのキャラクターが、各ページをうまく案内していると思うし、コラムの欄には、いじめ、自然、情報リテラシー、共生という各学年で取り上げたい大変重要な内容が掲載されていると思う。また、3年生以上では、巻末に日本の伝統工芸が美しい写真で紹介されていて、自分たちと地域のつながりというものも考えられるように配置されていた。

川 又 委 員 A者は、全学年に別冊の形で「道徳ノート」というものがあり、ここに書き込むことで、自分の考えを客観的に外部から多面的に見るように工夫されているところが大きな特長であると思う。巻末に各学年の学習内容一覧が表の形でまとめられていて、分かりやすく整理されており、教える側にとっても使いやすいものであると思う。また、例えば1年生の最初のところで、挨拶をする場合としない場合にお互いにどう感じるか、片付けをした場合としない場合にどのように感じるかなど、実際の生活にあるさまざまな日常的な動作や日常的な振る舞いを確かめることで、身近な人間関係の調整や生活環境の整え方というものが生まれてくることを示しているところが良いと思う、各学年でそのようになっていたと思う。

B者は、全学年の表紙のイラスト、表紙の裏側のイラストと短い言葉に様々なメッセージがあり、これによって「道徳」という科目の内容や目指すところが、児童に伝わるような工夫がされている。また、紙面の作り方として、文字やイラスト、空白、配色がよくできていると感じ、全ての学年で、とても読みやすい教科書になっていると思う。巻末に、考えるためのツールという部分があり、例えば心情、心のメーターや心の地図などがあって、これを利用することにより、自分の考えや気持ちを客観的に見る工夫、自分の考えや気持ちを表現する工夫がされているところが良いと思う。

C者は、1年生の導入が非常に緩やかで、これはとても良い構成になっていると思う。各学年の巻末の資料として、礼儀、マナーのまとめがあり、他者にはあまりない、良い紙面内容であると思う。また、巻末に、学習を振り返るためのシートがあり、児童が書き込むことにより、自分の気持ち、学習内容を客観化するという意味で、とても良いと思う。

D者は、1年生の教科書の初めにある目次などが、国語的に見て少し難しいと思ったが、ここはおそらく先生方が大きい項目を示して、児童はあまり小さい文字、文章を読まないような使い方をするというのであれば、1年生の導入部分として適切であると思う。また、内容としては、東日本大震災での石巻日日新聞社の記事や、荒川静香さん、羽生結弦さんの活動や努力の紹介、メッセージがあり、宮城県や仙台市の児童にとって、なじみのある題材であると思う。

E者は、1年生の教科書の初めの部分が、やはり国語的に少し難しいと思う。文字が小さい、文章が長いなどといったところがあるが、これも先生方が大きい項目を説

明して、あまり文字に頼らない導入の方法を取れば、特段問題はないと思った。表紙等の登場人物のイラストが年次的に成長していくように描かれていて、非常に良いと思う。教科書の中に書き込み欄が多数あり、児童が自分の考えを表に出し、客観化していくものとして優れたところであると思う。また、全学年の巻末に、児童へのメッセージとして、書家の書が掲げられており、1年生では易しいもの、高学年ではより深い内容の詩が毛筆で書かれていて、大きな特長かと思う。

F者は、1年生の初めの部分で国語的に少し難しい面があると思ったが、教科書の作りとして、「道徳が始まるよ」という、1年生から6年生それぞれの学年での学習のマップ、流れが、簡単な言葉と地図のようなもので書かれており、楽しい作りになっているので、1年生や各学年の導入がうまくできるのではないかと思う。巻末にはとじ込みのシールがあり、これを道徳で利用するということと、学びの記録というところに工夫があると思った。また、表紙の全体的なデザインや内部のイラストが個性的になっていて、個性的ではあるが、道徳の各場面での内容を直感的に理解させるような工夫がなされていると思った。

A者からF者については以上である。全体的な感想としては、道徳の教科書の中にいろいろな物語や説明、寓話などがあつたが、道徳の教科書の編集委員会が書かれたいろいろな物語の内容が非常に良く、道徳の内容を児童と議論するというわけではないが、児童に教えるのに適したものであつたと思う。また、全ての教科書に共通することとして、国語でもよく取り上げられる物語や童話、小説が、国語の時間とはまた異なった形で取り上げられていたので、これも良いところであると思った。

後藤委員 A者は、「道徳ノート」というものがとてもすばらしいと思う。教科書に書き込むものは他にもあつたが、自分の考えだけを独立して1冊のノートにするという手法は面白いと思った。自己を見つめ、自己の生き方について考えを深めるという意味では、自分の意見の移り変わりだけを見られるノートがあることは、知識の集積につながると思う。また、6年生の討論は、いじめと自分を守るという題材で、その題材を選んだ視点は、今必要なものだと思った。

B者は、身近な題材を取り扱っていて、文章の表現などは一步踏み込んでおり、その文章を読むだけで、伝えたいことが分かりやすい表現であると思った。また、ユニットごとの扉のタイトルが短い一つのワードで、伝えたいことが伝わり、これはとても大きなことで、効果が高いと思った。

C者は、1年生の導入部が易しく、このぐらいで良いと思って読んでいた。中でも、1年生には「ハッピーチェンジ」というところがあり、見方を変えると違う見方になるというところの気付き、このハッピーチェンジの考え方など、問題解決に取り組むための思考を低学年から取り入れているところはすばらしいと思った。

D者は、写真の配置がとても効果的で美しく、児童が自然と興味・関心を持てるような内容だと思った。道徳においては、装丁や見た目の美しさなど、感性に訴えかけることも、おそらく効果としては大きいのではないかと思う。D者は伝える力が強いと思い、見ていた。

E者は、高学年の題材がとても心に響く内容で、感動した。「学びの足あと」として、授業時間の振り返りをさせているところがすばらしいと思う。多彩な題材で、「考えよう」で思考を促し、「まとめよう」「広げよう」で発展させている。特長として、「考えよう」のところで複数の視点を示し、こういう考えもある、ああいう考えもある

るというように、児童の考え方を発展させているところも良いと思った。

F者は、巻末のシールを貼るという活動が特長的であると思った。文字を書くことがどうしても苦手な児童もいると思う。特に道徳の感想というのは、他の教科と違って文字にしづらいこともあるのではないかというのが私の印象で、通り一遍の感想であれば普通に書けるとは思うが、本当に自分の内面を反省したり、自己を見つめたりといったところを書くことが、難しい児童もいるのかと思った。シールを貼るという活動は、どんな児童、まだ自分の内面を見つめて言語化できないような児童でも、達成感が得られるという点で、評価して良いと思う。6年生の中川翔子さんのコラム「『隣の人』として寄りそう」の中で、隣にいてくれるだけでいい、それだけで救われるというメッセージがとても心に響く内容で、私は読んでとても感動した。

教 育 長 皆様からそれぞれの発行者の特長などについてご意見を頂戴した。

これから3者に絞っていききたいと思う。皆様それぞれ推薦される発行者3者を挙げていただければと思う。

山 田 委 員 A者、B者、D者。

庄 司 委 員 B者、C者、F者。

花 渕 委 員 B者、E者、F者。

梅 田 委 員 C者、D者、F者。

川 又 委 員 B者、E者、F者。

後 藤 委 員 B者、C者、F者。

教 育 長 そうすると、上位3者がB者とC者とF者の3者になると思う。

それでは、B者とC者とF者の3者に絞って引き続き議論をしていきたいと思う。一度お話しはいただいたが、この3者について確認や質問、それぞれの委員のお話に対しての質問、ご意見などあればお願いしたい。

花 渕 委 員 道徳に関して、仙台市教育委員会から教科書以外に学校に配っているものはあるか。
指 導 主 事 「杜の都の道徳教育」という冊子を先生方に配付しており、仙台市教育センターのホームページからも閲覧できるようになっている。

花 渕 委 員 「心のノート」というのは配っていないか。

指 導 主 事 「心のノート」については、今、文部科学省のホームページから見られるので、そのような形で活用することになっている。児童に直接配られているものではない。

花 渕 委 員 各学校で自由に使ったり使わなかったりしているということか。

指 導 主 事 おっしゃるとおりである。

川 又 委 員 道徳を教える先生はどのような方かということと、通信表にどのような形で児童の様子が記述されるのかということを知りたい。

指 導 主 事 誰が指導するのかということについて、基本は、児童のことを理解している担任が指導するという事になっている。しかし、道徳教育は学校全体で取り組むこととなっており、全教師が協力体制を敷いて指導するもので、授業においては、例えば校長先生が最後に話をするなどして、児童の学びを深めることもある。

通信表について、道徳は、児童の内面的資質、心を育てるものであり、それを数値化することはできないので、記述式で各家庭に伝えることとしている。

後 藤 委 員 採択の観点が違うという理由は分かるが、「特別の教科」と付けて、他の教科と区別している理由を幾つか教えていただきたい。

指 導 主 事 教科化に伴う大きなポイントとして、まず各教科と違って数値で評価をしないとい

うことが挙げられる。児童生徒の道徳性に係る成長の様子や学習状況で評価するというところが一つのポイントになっていると思われる。

教 育 長 では、ここから1者に絞り込んでいくことになるが、それぞれ皆さん、どの発行者が良いかということも含めて、ご発言をお願いします。

花 渕 委 員 私はB者がいいと思う。他の委員の方もおっしゃっていたのだが、「安心・安全」「情報モラル」「いじめ」「いのち」「じぶん」という、各ユニットが全学年で統一してあって、なおかつ、5月なら5月、10月なら10月というように、同じ時期に全学年で学ぶということは非常に大事なのではないかと思った。特に、仙台市の場合は、いじめというのを独立させているということ、市長も話していたが、いじめについてやはり道徳の中で取り上げていくということが非常に重要なのではないかと思ってるので、B者はそういった意味でもいいのではないかと思った。

後 藤 委 員 事務局に質問だが、B者の2年生の153ページに「まる子のかぞくへのしつもん」という単元があり、そこでまるちゃんが、おじいちゃんやおばあちゃん、お父さんやお母さんにそれぞれ質問をして、その質問した答えを児童がお父さんやお母さんなど家族の一員に成り代わって書く欄があるのだが、今は、お父さんやお母さんがいらっしやらない児童も多いと思う。まして、おじいちゃんやおばあちゃんと離れて暮らす児童も多くいると思うのだが、そうした状況で、この立場の人がいない児童には、どういう形で指導されるのか。先生方は、何か指導に配慮されているのか、聞きたい。

指 導 主 事 現場の声などを聞いたところでは、先生方は個別の配慮をしながら指導していると思われる。例えば、お父さんがいない、お母さんがいないということであれば、そこに配慮しながらこの教材を活用しているということ現場から聞いている。

教育指導課長 教科書の使用の仕方は各先生方もいろいろと工夫をしている。自分の指導するクラスの状況、家庭環境も十分把握をしながらということで、例えば家庭環境上で大きな課題などを抱えている児童がいて、担任の先生が指導するに当たり、個々の教材でこの部分を使うのはどうかといった配慮が必要な場合については、教材を別なものに振り替えるなどの配慮も行っている。教科書の内容を全て必ず授業の中でやらなければいけないということではないので、そのあたりは必要に応じて選択をするということになるかと思う。

山 田 委 員 私は、情報モラルというのを道徳で教える重要なポイントだと思っているのだが、各教科書での情報モラルの教え方で何か特長があればページ数で教えていただければと思うのだが、いかがか。

指 導 主 事 各者とも情報モラルについては扱っているが、道徳科で教える情報モラルなので、具体的な使い方ではなく、その操作をしたときにどういう心の動きがあるかや、そのような点を重視して各発行者とも情報モラルについては設定してあると思われる。

山 田 委 員 今のB者、C者、F者で、それぞれでどのように説明されているか、もし何か違いの分かるようなところがあれば教えていただきたいと思うが、いかがか。

指 導 主 事 6年生で比較した。B者は60、61ページに掲載されている。B者ではどちらかというと周りの人がどんな気持ちで接したらいいかという視点で教材が作られていると思われる。C者は49ページに掲載されている。C者では、実際にインターネットの使い方や、その発信をする前に確認しようなど、そのような使い方になっているという特長があるかと思われる。次に、F者は、92、93ページに掲載されている。F者では、自分や相手のことを考えて、どんな権利を大切にするのかという視点での情報

モラルの使い方になっているという特長があるかと思われる。

山田委員 インターネットが何たるかということや、著作権などを知りたいわけではなくて、ネット上にある写真を勝手に載せてはいけないなど、そういう例が結構教科書によって違う気がする。例えば、C者の5年生の102ページだと、ネット上で知らない人と知り合っただけで会いに行くような話まで出ていたり、そういう情報をどう使って安全を守るかのようなどころもあるのだが、それぞれの教科書でのネットの使い方というよりは、その危険性というのをどのような形で教えようとされているかという事例があったら教えていただきたいと思う。

指導主事 道徳の中での情報モラルの事例についてだが、児童が先生と一緒に、教材を基にして、自分の生活経験と重ねながら、SNSの使い方などについて、情報を発信するときの気持ちであったり、情報を送ったときの受け取った側の相手の気持ちなどを、多面的に考えたりしながら、実際の授業では深めているということを知っている。

山田委員 それでは、この教科書に載っているか載っていないかはあまり関係がなく、それぞれの先生方がどういう資料を使って教えるかによるという感じか。

指導主事 基本は教科書の教材を基にして授業を行っている。先ほどもあったが、教科書に載っていないものを使ってもちろん構わないということで、学校と児童の実態、そして先生の考えによって、その教材が変わってくるかと思われる。

山田委員 今、この教科書のどれがいいかを選定するという段階において、どの教科書にどういう情報が載っているかというのをもう少し詳しく知りたいと思ったのだが、そこは難しいか。

教育指導課長 道徳の中で、情報モラルに関することはもちろん取り上げている。一方で、道徳には指導すべき内容項目と呼ばれるものがあるが、おおむね22ぐらいの項目があるのだが、その項目で見ると、情報モラルというような項目で設定されているわけではなく、先ほどの話にも少し関係があるが、例えば内容項目という中のキーワードの1つに、公正、公平、社会正義という項目があり、各発行者がこのことに関連付けて情報モラルにも関わるような内容を題材として取り上げたり、あるいは親切、思いやり、あるいは友情や信頼、相互理解、こういったところに関連して情報モラルの内容を含めたりするケースがある。各発行者がどういう内容項目に照らして情報モラルをどこで取り上げるかというのは工夫をしているところなので、もしそれぞれの項目の内容を知りたい目ということであれば、少しお時間を頂戴して調べさせていただきたい。

山田委員 そこまでではなくて、いじめなど他の項目、大体見やすく入っているのだが、ネットに関してはどちらかという中に埋め込まれている感じがしたので、はっきりと見えてこないのが、そのあたりをどのように教えるのかというのが少しあった。特に、これからこの問題は大変重要であるという気がしたので、そこを各者がどう取り上げているのか、もしお分かりになっている点があったら教えていただければと思ったのだが、了解した。

後藤委員 事務局に質問であるが、C者の6年生の172ページ、「資料」のところ、世界人権宣言について取り上げている。F者も6年生の80ページで世界人権宣言を取り上げている。F者は、結構詳しく記載しており、先ほど山田委員のおっしゃったインターネットの使い方にも当てはまりそうなのが世界人権宣言の12条にある。F者はその流れから、先ほどの情報モラルを87ページから93ページまでずっと漫画仕立てで取り上げていて、危険なことを教えやすい形で教えており、大変見やすい情報だと思

った。

世界人権宣言について、B者の教科書の中で触れている場所が私は分からなかった。B者の中で触れている場所が分かれば教えていただけるか。

指導主事 B者は、5年生の104、105 ページに、世界人権宣言について記載されている。

後藤委員 では、6年生の教科書では取り上げていなくて、5年生の教科書のこの2ページで触れているだけということであるか。了解した。

教育長 皆様、それぞれ改めてご覧いただいているかと思うが、もしよろしければ、この発行者が良いというのも含めてご発言をいただけるとありがたい。

山田委員 B者とC者とF者のうちで、悩んでいるのはB者とF者である。どれもすばらしくて、C者もそうであるが、求められているものは多分全て入っていると思ったので、細部のところの違いなのかなという気がしている。教科書の色、紙の質、見た目などは、B者は非常に従来の教科書のイメージであり、F者は途中で漫画が結構出てくる。F者は漫画で説明をするようなところがあって、もしかすると児童はこういうほうが、すんなり学習に入れるかもしれないという気がしながら見ている。そういう細かいところでいくとF者もいいのかなという気が少ししてきている。

庄司委員 私はB者がいいと思う。例えば五つのユニットでしっかりと分けられて、段階を踏まえていて、各学年積み重なっているというのを感じる。さらに、いじめについて言えば、先ほどお話があったと思うのだが、どの学年も同じような時期と一緒に学習するというのも大変良いと思うし、山田委員から話があった情報モラルについても各学年でいろいろな切り口から展開されていて、そこも少し面白いと思って読んだ。今、情報モラルの件が、社会問題になっているので、いじめと同時にそういうのもとても大切なことだと改めて思った。各学年見てみると、様々な切り口で紹介されていて、本当に児童のその学年に合ったような話題で簡潔に載っているの、その取組もとてもいいと思う。

梅田委員 情報モラルについて、F者とC者は似たような視点で取り上げていて、先ほどご説明があったように、B者は道徳という観点から情報モラルをどう考えていくというようなことで、一人一人の考え方の違いとか、そういったことに焦点を当てているのかということを感じている。私も今、B者とF者で迷っていたのであるが、B者も障害がある子どもや、大人の障害のある方についてもいくつも取り上げてあり、またそのことについて学ぶような工夫がある。F者のほうもそういった工夫があるということは感じていた。

ただ、少し気になったのが、昨日も国語の教科書の話で出たところであるが、B者の、「ともにくらすわたしたち」という6年生の教科書の単元に、貧しい国の写真が出ているのが、アジアであったり、アフリカであったりの子どもたちが非常に多い。ほとんどそうであった。写真というのは難しい。確かに、子どもたちに訴えかけるには非常に良い教材であるが、それを使って、多様な子どもたちがいる中でどう教えていくかというのは大変難しいということを感じている。黒柳徹子さんの親善大使としての活躍を扱った単元でも、アフリカの子どもたちの写真が出ているので、そのあたりの教え方の難しさもある。配慮していかなければいけないということを改めて感じている。

先ほど話題に出た世界人権宣言については、私自身はなかなか多分この先こういった文章をしっかりと読むということはないので、世界人権宣言を単元として取り上げて、

ということが書いてあるのかということ学ぶ、そこから世界には、まだこういったことが十分確立されていない国があって、私たちはどう生きていくかというようなことを考えていくことができるのは大変良いと感じたので、私自身は今のところF者であると感じている。

川 又 委 員 私はB者がよいと思う。いろいろな文章だけではなくて、イラストや写真など、そういうものが非常によく作られていて、ある意味ではメッセージ性もある。それから、文字やイラスト、空白、そういうところが非常に紙面を見てもあまり疲れない構成になっているので、とても良いのではないかと思う。

一つ質問してよろしいか。道德の教科書全般に、いろいろな物語や、童話、寓話などが多く出てくる。国語の教科書にも採用されるような有名な童話や寓話などがあるわけであるが、そうするとある意味、道德の学習の中で、やはり国語の力というのはとても重要なものになってきていると思う。この教科書を読むときに、やはり基本は国語的に読まなくてはならない部分が多いと思うので、逆に言うと、国語的な能力が低い児童に対して、先生方はどのように道德教育をしていくかということと、そういう児童が自分の気持ちや考えを表現するときに、困難を伴うのではないかと思う。そういうときに、児童の気持ちや考え方をどのようにしてうまく引き出すのか、児童の気持ちをどのようにして先生方が理解していこうとするのかということと、国語能力に依存するところがあるのではないかと思う。

それから、もう一つの質問は、二次元コードがあって、そこからインターネット上のコンテンツに進むようなところが多いのだが、私がこの教科書を見ると、全てよくできていて、二次元コードでインターネット上でさらに動画や、もっと詳しい写真を見ることなどはもう不要な感じがしている。ここの中で採用された物語や寓話、それから編集委員会が作成した文章を読めば、かなりの程度、教材としては十分で、インターネットのコンテンツまで見る必要性があるのかどうか。実際にそこまで、インターネットについて教育をするような状況になっているのかどうか、その点についてお伺いしたいと思います。

一つは国語能力の問題で、児童生徒の国語能力がかなりの程度必要というか、それぞれに応じて授業を受ければよいとは思っているのだが、道德の教科書の題材を読んで、それを自分でこなして、それを表現するとなると、それは国語の時間以上に国語能力が必要だと思うところである。もう1点は、授業のなかでインターネットを実際を使うような状況にもなっているのかどうかということである。

指 導 主 事 では、まず1つ目、国語の能力が低い児童に対してということであるが、個に応じた指導というところで、教師側が範読をしたり、児童に合った発問をしたり、あるいは道德だったら動作化というものもあるので、書くことや話すことが苦手な児童でも動きで表現できる児童もいる。それらを基にして、教員は国語能力が少し低いと思われる児童に対して支援をしながら授業をしているということになる。

教育指導課長 2点目の二次元コードあるいはインターネットの利用というところであるが、教科書に例えば二次元コードが示されて活用できるようになっているが、これは必ず活用しなければならないというものではないので。それぞれの先生方の指導の際の判断と、学習を進めていく上で取り上げるべき内容として、事前に教材研究の中で内容については確認をしていると思うので、先生方がそれぞれ自分の指導する児童の様子で、使用する、しないというのを適切に判断しているものと思う。

後藤委員 私は、B者を推すつもりだった、改めて道徳の目的というものを見たときに、F者を推そうと思った。なぜかという、教科としての達成度合いを測るのではなくて、児童にこの内容を教えたい、しっかり伝えたいのである。そうであれば、漫画表現を使ったり、キャラクターを使ったりということで、一番大切ないじめの問題であるとか、インターネットの問題を、誰が見ても分かるように伝えているのはF者なのではないかと思った。

B者はとてもいい教材を出しているが、結局それは文書を読んで、そこから理解して、先生の指導があって初めて身に入ってくる、染み込むものが多かったと思う。対してF者は、各巻に、いじめについてのコラムがあるのだが、たとえ先生の指導が追いつかなくても、先生の指導が耳に入らない児童でも、教科書を自分で読むだけで、何が悪いのか、何をしてはいけないのかというところが具体的に入ってくる内容であった。全ての児童に道徳的な内容が染み込むように、こういった表現をしっかり利用してよく考えられている教科書だと思う。

もう1点が、F者の6年生で、世界人権宣言についてしっかり詳しく説明されている。6年生の80ページから始まるが、特に81ページから84ページまでは、誰にでもよく理解できる平易な言葉に変えて、しっかり子どもたちに教えている。私は、児童が、12歳、13歳になったときに、この知識がある子とこの知識が全くない子では全然違うと思う。もしかしたら理解できない子も多くいるかもしれない。でも、何となくこの教科書を使って、易しい言葉で説明されているこの全ての条項がどこかに残っていたら、その子はいろいろなところでこの知識がベースになって成長していくと思う。この知識が抜けてしまった児童と、しっかりこの知識が入っている児童とでは、全然違うのではないかと思う。全てがいじめにつながったり、人権につながったり、そういう道徳の基本的な考え方につながるものが、この世界人権宣言である。世界人権宣言は別に学ばなくていいのではなくて、ここに書いてあることが道徳で言っていることと一緒にだということ、これは学ぶべきだと思うし、必要な情報だと思うので、F者を推す。

教育長 皆さんの話を聞いて、B者とC者とF者で今お話をいただいたのであるが、まず3者から2者には絞れるのだろうということで、B者とF者について同じぐらいお話をいただいているので、BとFの2者にまず絞りたいと思う。

それで、ここから1つに絞っていかなくてはならない。これまでもいろいろお話をいただいたが、道徳だと、皆さんの話の中にも少し出てきているが、考えて議論しながらやっていくことも大切だと言われている。仙台市の採択の観点から言うと、対話的な学びという観点を含めてまたお話をいただくとありがたい。このことについて少し考えてみる、お互いに意見を出し合って話し合ってみるという話になるかと思う。

梅田委員 つくりの違いなので何とも言えないのであるが、B者のほうは、話し合い活動については、目次とその学ぶ内容が項目別に示されたところの次のページ、3年生以上は各学年大体6ページぐらいから、「気づく」、「考える」、「広げる・深める」、「ちょっと話し合ってみよう!」、それぞれの学年にふさわしい短い文の下に考えたことを話し合ってみようというような、道徳でどんな学び方をするのかを必ず導入の部分がある。

F者は、3年生以上の各学年の最初の単元の下のところ、例えば3年生だと10ページからであるが、「道徳の学び方」というのがずっとその単元を通して示されてい

て、読むときにはどういうことに気を付けて読んだらいいか、考えたいことに気付き、そしてよりよい生き方について考える、どんなことを考えていくのか、学んだことをつなげていくというようなことが、単元の流れに従って示されている。各学年の最初で道徳についての話し合い活動の仕方を学んで、その後、年間を通して、そのことを考えて、そのやり方をつなげていくというようなことができる工夫がされていると思う。

また、私がとても良いと思ったのは、最初の単元に入る前のところに、「みんなで気持ちよく話し合うためのコツ」というのが各学年で示されていて、話している人が何を言いたいのか考えながら聞こうということのほか、相づちの打ち方や、意見のやり取りの仕方が、具体的に児童がぱっと見て分かるように示されているので、児童にとってより取り組んでみようと思えるような内容であるというように感じた。

山田委員 1つ教えていただきたい。先ほどもご意見であったが、国語との関係で、例えばB者の1年生、最初のページの目次の次の次あたりに、どんな学びをするのかということが、それなりの文章量で入っていて、国語で最初にあいうえおをまず習うか習わないかぐらいの子どもたちにこれは読めるのかと思った。その場合、もうここは飛ばして、最初のところから入ることなのか。入学してどのくらいから道徳をやるのか。また、週に何時間あるのか。そこをお聞きしたい。1年生の導入のところが、結構B者は難しいという気がした。

指導主事 1年生の導入では、1年生がすぐに字を読むのではなく、教師自身が児童に応じてそれを説明したり、動きであったり、実際に児童にこんな場面だという説明をしながら活用すると思う。字の量が多い・少ないというのは関係ないと思われる。

山田委員 B者だと例えば1年生は10ページから入ることでもいいのか。

指導主事 おっしゃるとおりである。

花淵委員 道徳の場合は、やはりその道徳的な心情をいかに実践力に高めていくかというのが難しいところだと思う。心の中では分かっているが、それを自分の行動としてどう実践できるかということにつなげていくのが一番大事なところだと思う。そこについては、例えば役割演技的なロールプレイングなどを行うと、児童にとって大変分かりやすいと思う。もちろん話し合い活動も大事であるが、話し合い活動で終わらずに、その次のステップに入っていくというのはどういうことなのか。お年寄りに席を譲らなくてはならない、それは分かっているが、でも、実際譲れない。その道徳的な心情をどのようにして実践力に高めていくかというのが、先生方の力量であり、なおかつそれをつなげていくのは教科書だと思うので、そういう視点でいくと、私は様々な活動が入っているほうが良いのではないかと思う。

手紙で書く、ロールプレイをする、話し合い活動をするなど、いろいろな方法があり、そこが大事かと思っている。

後藤委員 話し合い活動について、どちらの教科書もとてもよく練られていて、どちらの教科書も、演じて考えようというものもあるし、それぞれの話し合いのこのように声掛けしようというものもとてもよくできていて、どちらの教科書もいろいろなアプローチで児童に話し合いをさせたり演じさせたりして実践させようという仕組みづくりができていると思った。

道徳の時間は本当に少ないので、児童に何が伝わるかということもそうなのだが、教えている先生が楽しく教えられる教科書が良いと思う。週に1回の道徳、教科書を見るのが楽しい、教科書について児童と一緒に話し合うのがすごく楽しいという時間で

あってもいいのではないか。これは駄目、あれは駄目というところはもちろん大事だが、世界はこんなふうなんだというように希望が持てることも教えてほしいと思った。

F者の1年生の教科書の86ページに、ここも話し合い活動ではあるのだが、世界の子どもたちとって、様々な国の子どもたちの写真が載っている。言葉はないが、肯定的な明るいメッセージを伴う形で出ていて、これについて子どもたちと先生が教室で話し合う光景を想像したときに、先生方は楽しいのではないかと思う。楽しそうだね、何やっているんだろうねというのを話し合う時間を想像したときに、この時間が先生にとっても楽しい道徳の時間となるのではないかと思った。単純に学年が違うので比較はできないのだが、先ほど梅田委員がおっしゃった、B者の6年生の「ともにくらすわたしたち」で話し合う題材は、88ページのおかゆを食べる子どもの写真を見ながら、この子のどんな声が聞こえてきますかというものである。6年生だからこれは必要な時間だろうとはもちろん思うのであるが、しかし、週に1回しかない授業時数で果たしてここをしっかりと教え、議論を深められるのだろうかと思った。肯定的なメッセージがあってもいいのではないかと思う。

もう一つ、道徳的だというのは、言葉として言ったときに必ずしも100%褒め言葉にはならない部分がある。そこは今の児童というのは大変敏感で、鼻につくというように一度してしまうと、もう受け入れない児童も多くいる。そこにどうやってアプローチをしていくのか。プラスのメッセージ、肯定的なメッセージから行いをよくしていこうというアプローチの仕方も考えていくべきである。これは駄目、あれは駄目、というメッセージが入っていない児童がいるというのを、少し考えていただきたいと思った。

山 田 委 員 F者の漫画が私は好きである。F者の3年生の98ページや、F者の1年生の58ページの漫画が、子どもたちのちょっとした感覚みたいところが生かされていると思う。多分一つの巻にどこの学年も2ページしか入っていないが、こういう見方も良いと思っている。

川 又 委 員 B者もF者もどちらも良いところが本当にあるので、どちらかということはなかなか言えない状況である。

庄 司 委 員 ポイントがそれぞれ違うので、同じポイントで見比べるとするのがとても難しい。取り組み方というのは本当にそれぞれで、本当にそれぞれよさがあると思う。私はB者が良いと思ってずっと推しているが、児童にとっても見やすく、取り組みやすいように感じる。各学年共通したルールで、一つのやり方でずっと進んでいくというのが、もちろん学校で学ぶことではあるのだが、興味を持って家でも読むという、自ら学ぶ教科になってほしいので、基本的なところや押さえてほしい内容というのが、明確に表示されているB者が良いと思う。

教 育 長 大分時間をかけてここまできたが、それぞれ良いというお話を、それぞれの立場の方からいただいた。道徳については、後ほどまた改めて時間を取って審議することとする。

10分ほど休憩を取り、社会について審議する。

(休憩 午後4時05分～午後4時15分)

【社会】

教 育 長 「社会」について協議を行う。事務局から学習指導要領の目標等について説明をお願いする。

教育指導課長 担当指導主事からご説明する。

指 導 主 事 小学校「社会」について説明する。

小学校「社会」では、社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質能力の基礎を育成することとしている。

協議会において取りまとめた小学校社会の全発行者の特長は、別紙資料1報告の別紙1の31ページにお示ししている。

主な特長について、まずA者は、単元ごとに、「未来につながるわたしたちのSDGs」のページが配置され、基礎的な内容から発展的な学習に段階的につなげられるように工夫されているということである。

次にB者は、「学びの手引き」において、学び方の具体が例示されていることで、問題をつかみ課題を解決するまでの過程を把握でき、主体的な学習が促されるよう工夫されているということである。

次にC者は、4学年と6学年の学習の中に、宮城県が事例地として取り上げられており、児童にとってより興味深く学習に取り組める内容になっているということである。

教 育 長 ただいまの事務局の説明に対してご質問等あればお願いする。

(質疑なし)

教 育 長 委員の皆様にご覧いただいたご意見をお願いする。

庄 司 委 員 A者は、1・2年生の生活科で学んだことを振り返りながら、3年生から始まる社会科への準備が丁寧に行われていると感じた。教科書の中にはいろいろなコーナーがあり、「学び方・調べ方」コーナーでは、「見る・調べる」、「読み取る」、「表現する」で、まとめ方や話し合いの仕方が分かりやすく掲載されており、学年が上がるとともに、積み重なって身に付くような工夫がされていると感じた。

B者は、「社会科の学習の進め方」で、「つかむ」、「調べる」、「まとめる」、「つなげる」の流れが示されている。「つかむ」には、この時間の問いとして学習の目当てがあり、次につなげようでは問いが例示されており、調べ学習や考え方など見通しを持って進めていけるような工夫があると思った。また、「まとめる」では、文章にまとめて発表する、話し合うなどの対話的活動ができるような工夫があり、とても良いと思った。

C者は、6年生は政治・国際と歴史の2冊に分かれていて大変学習しやすいと感じた。4年生の都道府県の学習では宮城県が取り上げてあり、児童が興味を持って取り組めると感じた。「社会科の学習の進め方」として、「つかむ」、「調べる」、「まとめる」の流れの中で、イメージを膨らませながら進められるような工夫があり良いと感じた。また、学習したことを次の学習や生活に生かしていく「いかす」では、自分たちにできることを考えたり、将来に向けて主体的に考え、問題解決しようとする力を育むような工夫があり、大変良いと感じた。

花 淵 委 員 A者は、学習問題をつくる場面、予想を立てる場面、学習計画を立てる場面、それぞれの場面で、個の一人一人と集団とが関わりながら問題を解決するような具体的な

場面を設定しており、児童の学びが深まるのではないかと考えた。それから、巻末のSDGsの目標シール、これも児童にとっては、自分ごととして意識付けるのに良いのではないかと感じた。

B者は、基本的に見開き1ページで学習が進むように配列されていて、学習の流れがつかみやすいと感じた。それから、学習が今どの段階にあるかが分かるようにインデックスがついていて、この段階を今やっているということが、児童自身でつかむことができるようになっているのが、良いのではないかと思った。

C者は、先ほど事務局からもお話があったように、4年生と6年生で宮城県を取り上げている。これは児童にとって、大変身近な場所を学ぶことができ良いのではないかと感じた。それから、6年生がいわゆる歴史的な分野と公民的な分野の分冊になっていて、この教科書は何を学ぶ教科書なのかというのが明確になっていて大変良いと思った。3・4・5年生の市、県、国の学習から、6年生は違う学習になるというのが明確になっているのはすばらしいと思った。

梅田委員 A者は、社会科が始まる3年生のところを私も最初に見たのであるが、社会科が始まるという示し方がされていて、地図を使って学ぶ内容が示されていた。教科書の使い方も、児童向けに丁寧に示されていて、生活科からの移行が無理なくできると思った。また、見開きの図や漫画などを使いながら、児童が興味を持って社会科の学習に取り組めるような工夫がされていた。また、中に出てくるグラフが、多分算数などのグラフとはまた違うと思うが、とても分かりやすい形で、普通のグラフではなく、丸や水のペットボトルの数など、そういった形で分かりやすく示されていた。説明にもあったように、未来につなげるSDGsのページも充実していてよかったと思う。

B者は、生活科の振り返りが2ページで十分な量を取られていて、また4年から6年には「前の学年をふりかえろう」という2ページのページがあって、系統的な学びを意識していると感じた。6年生の最初ではパラリンピックが取り上げられて、共に生きるというテーマが意識付けられていて良いと感じた。ICTを活用した学習については、オンライン学習や、オンラインインタビュー等についても丁寧な説明があり、新しい学習の仕方について紹介されていて良いと思った。また、他の教科との関連も冒頭にあって、アイヌ文化についても、資料であるが丁寧に2ページ取り上げられているのもいいと思った。また、3年生の白地図では、手描き風の地図があって、児童が親しみを持ちやすいと感じた。

C者は、生活科とのつながりが、この発行者も丁寧に示されていて、生活科の何がどの学習につながっていくのかということが分かりやすく示されていた。先ほど花渕委員がおっしゃったように、宮城県が4年生と6年生で取り上げられているということについては、児童が親しみを持って取り組めるのではないかと思った。小学校5・6年生の教科書が2冊に分かれているのも扱いやすいと思った。特にC者はページが2分割されていて、左側と中心になる部分に分かれている。そして、両端は資料的な内容というような形がはっきりと示されていて、見やすく良いと思った。C者についても、アイヌ文化について、単元の中で触れられているのもよいと思った。情報が整理されているということと、左ページに「つかむ」、「調べる」、「いかす」というような見出しがあって、児童が何を学ぶかということが分かりやすい工夫がされていると思う。

川又委員 A者は、3年生から6年生まで各1冊で構成されている。それぞれの学年の表紙と

裏表紙で、各学年で学ぶ内容の写真が、美しい写真が複数配置されるような構成になっていて、その年次の学習目標が教科書を見るたびに分かるような構成になっている。SDGsに関しては、全ての学年で目標シールが付けられていて、学習者が自分で考えて目標シールと学習内容を対応付けるような工夫がなされている。6年生の教科書の最後にとじ込みの年表があり、これが大変分かりやすく、また書き込み欄や切り貼りをする欄があり、学習者が実際に教科書を使ってそれを少しずつ作っていく学習をさせるよう工夫がされている。さらに、一つ私が思った特長としては、地理的な内容が出てくる際には西日本の題材が多いと感じた。これはC者もまた別の特長があるが、A者は西日本の地域的な題材が多いと感じた。

B者は、3年生から6年生まで各1冊の構成になっている。B者の教科書は、全学年で文字が見やすく大きく配置されており、見やすく読みやすい紙面づくりになっていると思う。また、説明分野の資料も大きく、グラフがいろいろ比較できるような優れた配置になっている。B者の教科書では、東北地方の災害の事例が多く取り上げられている。また、全学年にわたって表紙の次の裏側のページから、前年の振り返り、社会科での見方・考え方、他の教科との関わりを説明しているページがある。教科書の最後の方のページでは、学習の振り返りのページがあり、各学年での社会科全体を見渡すような工夫がされている。それから、3年生の教科書の巻末に、「わくわく！社会科ガイド」があり、スマートフォン、インターネット、図書館等での社会科の調査の方法が説明してある。

C者は、3年、4年、それから5年の上巻、5年の下巻、6年の歴史編、6年の政治・国際編という全体で6冊の構成になっている。C者は、全体として文字が大きく、説明文や図版が緩やかに配置され、空白も適切に配置されていて、見やすい紙面づくりになっていると思う。C者の特長としては、宮城県と東北地方の取り上げ方でページを多く割いている。4年生の最初のところの県の広がりというところでは、宮城県を例にしてかなりのページ数が割かれて、詳しく説明されている。第5章の「特色のある地いきと人々の暮らし」という章では、宮城県内の様々な場所に関する特色、生活の話題が詳しく紹介されている。ページ数を調べると、4年生では約50ページ分が宮城県の題材となっている。それから、5年生では、災害防災関係の章のところでは宮城県の様々な地域に関する災害防災、自然の話題が豊富に取り上げられている。

後藤委員 3者とも共通して、見開きのところに疑問を提示して、疑問に答えさせる、考えさせる、言語活動を活発化させるような配慮のある教科書の作りだと思った。

A者は、情報量が多く、コラムも充実していて、写真も豊富である。「わたし(たち)の問題」で問いを提示しているが、すぐに答えの出る問題もあれば、どのように考えますかのように決まった解答のない問題もあり、考えさせようという意図を感じた。

B者も、情報量が多く、内容も充実していた。6年生「世界の中の日本」では、21世紀に入ってからの事件も多く取り上げており、現代の問題にも触れているというのが特長かと思った。6年生の262ページで、イスラム教についての説明を行っており、知識として必要なことではないかと思って面白いと思って見た。B者に関しても、やはり見開きで問いを提示するのであるが、疑問に思った問いから、皆で作った学習問題というところで、総まとめのような問いを分けてつくっているのが、重点的に学ばなければいけないところをしっかりと押さえていると思った。

C者は、地域的に仙台を取り上げているので、仙台は恵まれていると思って教科書を見た。要点のまとめ方がとても分かりやすく、必要な情報が載っており、分かりやすいと思った。C者に関しては、「つかむ」、「調べる」、「まとめる」で、やはり疑問点を出しており、アプローチの仕方をつかみなさい、調べなさい、まとめなさいというように、同じように疑問を出すのであるが、ちょっと変えた形で児童にアプローチしているところが工夫されていると思って見た。

山田委員 A者は、全体的に量が多くて詳しい内容になっていると思う。最初にもあった「未来につなげる～わたしたちのSDGs～」というページが教科書内に複数あり、単元と学んだこととの関連の話題を説明しているのがよいと思う。また、各章のキーワードが、虫眼鏡マークや、鍵マークで示されていて、記憶に残りやすい。見方・考え方に二次元コードが配置されていて、他との関連が示されているのもよいと思う。まとめ方についてのページがあるが、児童がグループで話し合っ、まとめのノートにするような形で、文章にするというのが特長だと思った。

B者は、二次元コードの中央にマークが表示されていて、動画なのかワークシートなのかが分かるようになっている。それから、選択項目として東日本大震災の説明がある点が、こちらも仙台市、被災地として重要だと思った。また、まとめの仕方として面白いと思ったのは、歴史編のところの織田信長や豊臣秀吉へのインタビューで、そこを穴埋めで埋めるような形になっているまとめの仕方も、なかなかユニークだと思った。

C者は、他の教科書もそうであるが、3年生、4年生と、だんだんと視野が広がっていったって、6年生は「政治・国際」「歴史編」の2分冊になっているというのが、すごく持ちやすく、また見やすく、系統立ててつくられていて良いと思った。また、C者は東日本大震災を題材として取り上げていて、仙台についての情報が多く入っているのが特長だと思う。こちらも、まとめの方法が、空欄を埋める形式であったり、信長についての学習だと2ページにわたって自分たちでまとめていく形になっていて、歴史はこういうまとめ方が非常に重要だと感じた。

教育長 この後、1者に絞っていくが、確認をしたい点、他の委員の方の発言に対する質問、事務局に対する質問など、そういったご発言をいただきたい。

川又委員 C者は、皆様おっしゃっていたが、宮城県や仙台市、それから東北地方の題材が多い。教える際には、例えば4年生の第1章で県の広がりや全て宮城県の話として説明されており、4年生の第5章も「特色のある地いきの人々の暮らし」では宮城県の各地域の話が全て入っている。こういう教科書の構成であると、実際に使ったとすると、これをそのまま使うのか、ある程度、副読本みたいなもので各地域の資料を使うのか、そのあたりはどのような授業の形態になるのか。C者であれば宮城県や仙台市はそのままこれを使えそうな気もするが、他の地域であると、また別な使い方、考え方があるかと思うので、仙台市に限っての話ではいかがか。

指導主事 仙台市教育センターで、「わたしたちのまち仙台」という副読本を作成している。そちらは全学校に配付しており、それも使いながら指導するという事になっている。そして、事例地が例えば宮城県でない指導しにくいのかということであるが、例えば高学年の学習指導要領には、我が国の国土の様子と国民生活の内容の取扱いについてということの規定があるのだが、事例地の選定に当たっては、例えば自分たちの住んでいる地域の自然条件と異なる地域を選択するよう配慮する必要があるというの

もある。事例地が必ずしも身近であればよいということではないということである。

教 育 長 では、この中でどこの発行者が良いか含めて、ご発言をいただければと思う。

庄 司 委 員 私はC者が良いと思う。学習の進め方や、児童がそこを見て自主的に進めることができるというところと、やはりドラえもんなど、そういったキャラクターを多分児童は大好きで、そういうところが学習へ入りやすいと感じる。あとは、やはり6年生の教科書が「政治・国際」と「歴史」の2冊に分かれているというところも良いと感じた。

花 淵 委 員 私も、C者は圧倒的に宮城県、仙台市を扱っている部分が多いというのもあるし、教科書のつくりとして、地図のところは、宮城県、仙台市に限らず日本全国そうなのであるが、日本地図を出して、そこからその県の位置を引っ張ってくる。この県はここにあるんだよ、日本の中のここにあるんだよという表示の仕方をしているので、地図学習についてもここから発展させて地図帳に広げていくということにもつながると思うので、社会科の教科書と地図帳を複合的に使えるという意味からも、C者の教科書は非常に良いと思う。また、5・6年生がやはり分冊になっているというのが、私はとてもすばらしいと思った。

梅 田 委 員 私もC者が良いと思う。先ほどの事務局のご説明の中で、必ずしも教科書で取り上げる内容が宮城県とか仙台市でなくてもという話はあったのであるが、やはりこれだけたくさん取り上げてみると、児童にとっては身近に学ぶきっかけになっていくし、自分たちの住んでいる県、市を知っていく良い導入になると感じた。そして、もう一つ、C者が丁寧に、少し難しい言葉について、「言葉」という小さなコラムで、資源や市町村等ということについて丁寧に説明してあるので、これも児童が自分たちで学んでいくときに疑問に思ったことをすぐ調べられる、あるいはもっと発展して調べる場合は多分二次元コード等からも調べられるのだろうが、とても良いと思った。

川 又 委 員 私もC者が良いと思う。宮城県、それから仙台市、東北地方をかなりページ数を使って取り上げられているということもあるが、全体として説明の文章や、図版が優れていると思った。

後 藤 委 員 私もC者を推薦する。昔、子どもが地図帳を持ってきて、こけしについて熱く語ったことを思い出した。多分、この教科書からだったのかと思った。

山 田 委 員 私もC者が良いと思う。流れも良く、歴史上のところのまとめ方がすごく見やすく良いと思った。

教 育 長 皆様からご意見いただいたが、C者が良いというようなことだと思う。分冊になっていることであったり、地元が取り上げられているということ、まとめ方などについても話をいただいたところである。

そういったことを踏まえて、総合的な観点からC者でよろしいか。

(異議なし)

教 育 長 では、今ほど申し上げたような内容などを採択理由とし、事務局のほうで整理させていただき、7月25日に最終的に決定したいと思う。

【地図】

教 育 長 「地図」について協議を行う。事務局から、学習指導要領の目標等についての説明をお願いする。

教育指導課長 担当指導主事からご説明をする。

指導主事 小学校「地図」について説明する。

小学校「地図」についての教科の目標は、小学校社会科と共通である。先ほどご説明させていただいたので、ここでの説明は割愛させていただく。

協議会において取りまとめた小学校地図の全発行者の特長は、別紙資料1、報告の別紙1の33ページにお示ししている。

主な特長について、まずA者は、「ホップステップマップでジャンプ」において、学習内容を発展させ、答えが一つではない問いを設定するなど、言語活動の充実に配慮されているということである。

次にB者は、「地図マスターへの道」において、知識及び技能が身に付けられるような問いが工夫して設けられ、主体的な学習態度を形成できるよう工夫されているということである。

教 育 長 ただいまの事務局の説明に対して質問等があればお願いします。

花 渕 委 員 もし分かれば教えていただきたいのだが、地図帳は、前回の改訂から3年生から配られるようになったのであるが、それで現場から何か声などは聞こえているか。

指 導 主 事 4年生からの使用だったところが、3年生からの使用に変わったが、特段使いづら
い、教えるにくいという声は聞いていない。

花 渕 委 員 3年生の最初は2年生が終わってすぐなので、かなり難しい地名などがあると思う
のだが、そういったところでの戸惑いや先生方のご苦労とかは特になんかということ
でよろしいか。

指 導 主 事 特に聞いていない。

教育指導課長 授業の中において、地図の活用のレベルの問題もあると思う。6年生あるいは5年
生、4年生で、いわゆる地理的な内容を本格的あるいは詳しく学習していくときの地
図の活用の仕方と、3年生が1・2年で生活科として学んできた延長の中で社会科の
学習を始めるわけだが、そのときに地図を学んでいく学び方は異なるので、3年生の
発達の段階と学習の内容に合わせて活用しているということになる。

教 育 長 そのほか確認しておきたい点があればお願いします。

(質疑なし)

教 育 長 それでは、委員の皆さんから、それぞれの見本本についてのご意見をいただきたい。

花 渕 委 員 A者は、先ほど事務局からもあったが、「ホップステップマップでジャンプ」、こ
れは地図を見ながらクイズや作業に楽しく取り組んで地図学習ができるように配慮
されていると思った。それから、外国語や道徳、家庭科など、他の様々な教科や活動
で活用できるような地図となっており、その要素もまた載っていると感じた。

B者は、特に、先ほど私も聞いたのはここだったのだが、3年生の地図への導入部
分が非常に丁寧にページを割いてあり、地図帳に初めて出会う3年生に優しいつくり
になっていると感じた。それから、3年生から6年生まで使用することを意識してあ
り、発達の段階に配慮してあって、学年ごとに使い分けができるような工夫がされて
いると思った。また、載っている要素、情報量が非常に精選されているという気がし
た。さらに、市街地と山間部の色彩がはっきりしていて分かりやすいということ、そ
れから、文字は重要な地名を他の文字よりも大きく示してあり分かりやすいと感じた。

梅 田 委 員 A者は、日本全体から各地域へ、そして主な都市へというような構成になっていて、
児童がまず3年生で地図に出会って、日本という国がどういう形で、それからどんな
県があって、どんな町があるというように、スムーズに地図に親しんでいけるように
構成が工夫されていると感じた。また、各地方の特色や産物などの写真も多くあり、

先ほど花渚委員もおっしゃっていたが、社会科以外の学習にも活用できるような工夫がされていたと思う。最初の方でページを割いて、地図の見方や地図記号や方位などについてかなり詳しく丁寧に説明をされていたという感じがする。

B者は、最初のところに、3年生の導入だと思うのだが、「広く見わたす地図」という情報量を非常に精選した日本全国の地図があり、とても見やすく、どんな形で何がこの産物なのかということが示され、3年生の児童が興味を持って見られるような工夫がされていると思う。学年を追って必要な情報を盛り込んでいく形で、地図の表現が変化してきていて、構成が工夫されていると感じた。学年で取り扱う流れに沿って地図の情報量が操作されているので、多くの情報量が必要な学年の部分については十分な情報が入っていると感じる。色合いが、先ほども出たが、非常にはっきりと示されていて、山間部の方と、それから平野の方の色を見て、はっきりと違いが分かるような工夫がされていた。特に、東京都とその周りという71ページの見開きになっている地図は、東京都も意外と山があるんだということに気付けるような工夫があって、東京湾のところから山間部のほうまで分かりやすく示されていると感じた。

川 又 委 員 A者は、全体として情報が詳しく載っていると思う。詳しいが、紙面構成や表示、そういうところは分かりやすく表現されていると思う。それから、自然災害の閉じ込みのページがよく整理されており、岩手、宮城の最近の災害についても詳しく記載されている。それから、地域と文化、産業、歴史、統計データの表、グラフ等が非常に見やすい形で記載されている。

B者は、3年生から6年生まで使うということを意識されているようで、最初は非常に分かりやすく単純化された地図、図形、イラスト等を利用して、導入しやすいように配慮されていると思う。また、地域や文化、産業、歴史、統計データについても、ある程度簡略化されて分かりやすく表示されている。SDGsの目標に関連するページがきちんと示されている。さらに、自然や災害・防災について、地学的な観点からきちんとまとめられており、宮城県、東北地方の子どもたちにとっては分かりやすい事例ではないかと思う。

後 藤 委 員 A者は、地域の高低情報があって、見慣れた地図だと思った。15ページ、16ページにあるような日本地図もとても見慣れた形で、海溝の形や海の中の地形なども見えて、情報量が多いと思った。また、写真が多くて、動物や料理の写真などが多くて、地図だけではなく、他教科につながったり、児童の興味・関心を引く内容だと思った。

B者は、低学年でも見やすいつくりになっていると思った。特に、日本の自然災害と防災の教育の説明がとても詳しくてよかったと思う。B者は日本地図に江戸時代の街道地図があって、江戸の5街道の地図が載っていたのがとても面白く、私はこれをずっと見て、随分日本も変わったと思いながら見ていたので、児童も江戸時代の地図をきっと興味を持って見てくれると思う。A者が地形的なものをクローズアップして、海の中の地形を表していたとしたら、B者はどちらかというところから周辺の国との境をしっかりして、周りにどんな国が配置されているかというところから導入していると思った。

山 田 委 員 A者は、日本の自然、産業、貿易など、あと統計表や地図上で名産品、工芸品なども表示されていて、イメージしやすい内容になっていると思う。

B者は、日本列島全体を見渡すところから、100万分の1、50万分の1、各都市拡大図というように少しずつ詳細になっていて、段階的に見えるようになっていくのが

非常にいいと思った。字の大きさなのか、色使いなのか、私はB者が地図として見やすいという印象を受けた。

庄 司 委 員 A者B者両方に共通している点だが、3年生から使うので全て振り仮名が振られてあり、大変見やすいと思った。また、高低差の色付け、色分けのほかに、産業の記号、文化歴史の記号など、いろいろな記号が付いているが、それも見やすく分かりやすい、また本当に色も、あまりきつくないきれいな色を使っているの、うちにある地図とはかなり進化していて違うと感じた。

A者は、「ホップステップマップでジャンプ」では、楽しく取り組むことができ、言語活動の充実や地図への興味・関心が高まるように工夫されていると感じた。

B者は、防災マップの作り方なども載っていて、防災に関する地図や資料が大変豊富で、実際に児童が考え作成することで、防災教育にもつながっていくと感じた。

教 育 長 皆さんからご意見を頂戴した。さらに確認したいことや、それぞれの委員のご発言に対してのご質問などあれば願います。

川 又 委 員 これは地図を3年生から6年生まで使うということで、漢字の勉強の段階で様々かと思うのだが、そのときに振り仮名の振り方の一般的な規則というか、習慣がどのようになっているかということでお伺いしたい。事例で言うと、かなりの程度振り仮名が振られているが、振り仮名が振られていない地名や単語が出てくる。それから、例えば「距離」という文字は漢字ではなくて平仮名になっていて、漢字にして振り仮名という表記の仕方もあるのかもしれないが、漢字と平仮名と振り仮名の一般的な流儀や、文部科学省からの推奨というようなことは何かあるのか。

かなりの程度、振り仮名が振られているので、ほとんどの漢字に振り仮名が振られていると思えばそれで間違いないのだが、たまに平仮名であったり、それから振り仮名がない場合もあるので、何かルールがあれば教えていただきたい。

指 導 主 事 特段、文部科学省からこういうようにということは示されていないのだが、各者、当該学年の配当漢字、固有名詞、社会科用語等には見開きごとに振り仮名を付すなど、平易な文章表現や語句解説により、読解に負担がかからないように各者で工夫されているようである。

教 育 長 他に確認がなければ、どの発行者のものがよいかというご意見も含めてご発言をいただければと思う。

花 淵 委 員 私はB者がいいと思う。何人かの委員の方も話していたが、市街地と山間部の色彩が非常に分かりやすく、地図の場合には目からの情報は基本的に色で入ってくるので、これは非常に大事なポイントではないかと思った。それから、3年生で配られるのだが、6年生まで使うということを意識してつくってあるというのもB者のほうが良いのではないかと思った。

梅 田 委 員 私もB者が良いと思った。3年生で渡されて、最初に情報量を工夫して少なくした地図から始まって、学年を追うに従って、その学年に必要な情報が組み込まれた地図に変わっていく。後ろのほうのページにいくと、今度は地図のことだけではなくて、防災や産業についての資料も分かりやすく地図で示されているという、その流れがとても良いと思った。また、地図の色も見やすいと思う。

後 藤 委 員 私もB者が良いと思う。地図を見比べて見たときに、やはりA者の地図は、もしかしたら児童には捉えづらいのかと思った。情報量かどうかは分からないが、もしかしたら細か過ぎて情報を得られない児童が多いのではないかと思う。やはり小学校で使

う地図なので、B者が良いと思う。

山田委員 私もB者が良いと思う。大きく広く東北地方の地図というのが、A者だと48ページ、B者だと74ページにあるのだが、「ホップステップマップでジャンプ」のところで、もう一方「地図マスターへの道」に質問が載っているのだが、学年の違いでこの質問のレベルが違うのかもしれないのだが、リンゴが多いところの記号を探そうや、伝統工芸品の記号を探そうというのはもちろんいいとは思っているのだが、B者のほうは平野や盆地に多く見られる土地利用を答えようとか、要は他の教科とのつながりもあるし、気仙沼湾で養殖業が盛んな理由を説明しようというようなことも入っていて、少し考えさせる内容になっている。地形と産業とのつながりのようなところを考えさせるのが良いと思った。

教育長 皆様B者が良いのではないかなというふうなお話なので、色使いだとか、3年生から使い始めて6年生まで使うことへの配慮、情報量についてご発言があったかと思う。今の皆さんの話から、B者ということにしたいと思うがよろしいか。

(異議なし)

教育長 それでは、地図については、今のような内容を採択理由として事務局で整理させていただいて、7月25日に最終的に決定をしたいと思う。

この後、道徳の再審議と特別支援関係の審議が残っているが、10分ほど休憩を取りたいと思うので、午後5時30分からということでお願います。

(休憩 午後5時17分～午後5時30分)

【道徳】

教育長 それでは、先ほどまとまらなかった道徳について、審議を行いたいと思う。

これまでいろいろな観点でお話をいただいていたが、改めて皆さんからご意見をいただくに当たって、仙台市の採択の観点がいろいろあるが、仙台市がこれまでも取り組んでいる重点的な施策からして、生命を大切にすることや、他人を思いやる心の育成、人権を尊重することといった点などに着目していただいて、仙台市の小学生が使用するのにふさわしい教科書を1者に絞っていきたいと思う。そういったことも含めてよろしくお願います。

改めて、B者とF者と絞っていきたいと思うので、まず先ほど申し上げたような観点を含めてご発言をいただければと思う。

花淵委員 事務局に質問というか確認であるが、F者で山田委員が言った「なんだろうなんだろう」というところ、非常に分かりやすく漫画が掲載されてあるが、実際、授業中ではどのような扱いになっているか。目次を見ると、ここは特に番号が振っていない。通し番号の1から35までである中で、どういう扱いなのか。もし分かれば教えていただきたい。

指導主事 これは題材ではなく、補助的、発展的に扱っているというところと思われる。

花淵委員 必ず扱わなくてはならないというわけではないということか。

指導主事 そういうことになる。

山田委員 F者の「みんなで気持ちよく話し合うためのこつ」は私も良いと思っているのだが、「こつ3」のところで「話をつないでいこう」とあるのだが、B者とF者と両方の比較で事務局にお聞きしたいのだが、最後のまとめ方というのはどこかにあるのか。そ

それぞれの意見を言うところまではあると思うのだが、誰がどういうふうにまとめていくのかというところ、これはコツにはないのだが、そういうのはどこかに記載があるのか教えていただければと思う。

指導主事 話合いのまとめ方ということだが、道徳科では、児童が考えることは全部正解ということになり、決してその一つを求めるものではないということになる。児童にとって自分自身の考え方、あるいはこれからの生き方につなげるというところで、個人でまとめていくことが多くなるので、一つにまとめる内容は載ってない。道徳科の特質からそう思われる。

山田委員 そうすると、それぞれの意見を言うところで終わりということか。

指導主事 話合いでは、道徳科の「考え、議論する」の「議論」に当てはまるころだと思いが、児童は自分の考えに対する多様な考えを聞いて、自分以外ではこういう考えもあるのだという話合いを通して、様々な意見を十分に取り入れることを道徳科では大事にしているので、一つにまとめるということではないということになる。

山田委員 了解した。では、道徳以外の教科等では、一つにまとめるといった話合いを学ぶのか。どこの教科で学ぶのか。

指導主事 教科の特質によって、もちろん小学校の算数では一つの答えを求めていくので、話合いで正しい筋道の解答というところで、話し合いながら一つの答えを求めるといったことがある。教科の特質によって変わってくると思われる。

山田委員 算数は多分もう解答が決まっていると思うが、他のもので、例えばクラスで何かを決めるとか、そういうときのそのまとめ方というのは、どこの教科で学ぶのか。

教育指導課長 学習のまとめ方、いわゆる課題解決学習というようなことは、学校の教育活動の中で各教科で行われている。先ほども出たような学年の発達の段階に応じて、話合いのさせ方、まとめ方を各段階に合わせて指導しているが、それぞれの教科の中で触れながら、話合いの仕方やまとめ方というのは学んでいく。どこかの教科だけでやっていくということではないというのがまず一つある。

それから、小学校・中学校ともに、総合的な学習の時間が設定されている。総合的な学習の時間は、いわゆる探究型の学習をしていく。課題を設定し、そして情報収集し、整理し、話合いをし、まとめをし、結論を導く。これが総合的な学習の時間の基本的な学習の形ということで、いろいろな学習教科で学んだことを総合的に生かしたり働かせたりしながら、そういった技能や、態度を身に付けていくという学習方法を取っている。

山田委員 学んだことをまとめるということを行っているのではなくて、意見が違う児童が何人かいるときに、その意見を集約するのはどこで行うのか。

教育指導課長 各教科の中で、グループ活動などをしたときに行っているということになる。特定の教科でその方法を教えているということではない。国語の授業の中でも、例えばディベートのすることについて学ぶ機会があったり。社会科で課題解決のためのグループ学習をするときに、例えば環境学習で一つの答えや方向性を導いていくためにどのように合意形成を図っていくかなど、そういったことは各教科の指導の中で行っていくということになる。

山田委員 了解した。ただ、道徳ではそこまではやらないということか。

教育指導課長 その通りである。

教育長 そのほか確認しておきたい点があればお願いしたいと思う。

花 瀨 委 員 先ほど教育長からお話があった仙台市の採択の観点の、「内容に関すること」(3)について、「生命を大切にし人権を尊重する心」、「他人を思いやる心」、「美しいものや自然に感動する心」、この三つの心というのは、道徳でいうとどんな価値項目に当たるのか。

指 導 主 事 関わる内容項目として、D-1の「生命の尊さ」、そしてB-1の「親切、思いやり」とB-2の「自然愛護」というところになってくると思う。

教 育 指 導 課 長 1点補足する。今、指導主事の説明でAやBなどというのがあったが、これについては道徳で学ぶ内容項目が大きく4つに分かれている。Aは、主として「自分自身に関すること」、Bは主として「人との関わりに関すること」、Cは「主として集団や社会との関わりに関すること」、Dは主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関することという大きな4つのグループ分けがなされており、その中に先ほどお話ししたような内容項目というのが含まれている。

教 育 長 今のは学習指導要領に出てくるということか。

教 育 指 導 課 長 その通りである。

梅 田 委 員 今、1年生から6年生までの目次を見て考えていたのだが、B者は、私も良いと思っていた五つのユニットが、どの学年でも満遍なくバランスよく並んでいると感じている。

一方、F者は、目次の部分にはお話とコラムを合わせて学習するまとまりというのが同じように色で示されていて、大きくページを割いてあるので、もう少し深く学ぶということなのだと思う。それが低学年だといじめ、情報と向き合うということの二つ、3年生以上はどの学年でも「いじめを許さない心」というのが一番先に出てきていて、そしてここだけを扱うわけではないと思うが、かなりのページを割いて、いじめについて考える部分があるということを見ると、私自身は仙台市の児童にとって、F者の道徳の教科書というのは、いじめについて深く考えられるものではないかと感じる。

それともう一つ、6年生の教科書の184ページに、みとりという命が終わるときを見つめるという題材がある。みとりを取り上げてあるのはF者だけで、大好きな曾祖母との別れを取り上げてあるのだが、暗く取り上げているというよりは、今の時代なかなか児童がみとりを経験するということではなくて、そういうことも含めて命の重さというのをなかなか感じる機会が少ない時代になってきており、その中で大切な人との別れというのはどういうことなんだろうかということを手際よく取り上げている。これを扱うかどうかはまた違ってくるが、そういう機会があるというのは、特に6年生の教科書なので、児童の発達段階を考えても、私はとてもいいのではないかと感じた。それで、F者がいいと思う。

庄 司 委 員 B者、F者が両方とも、例えばいじめ問題であったりとか、命の大切さとか、本当に両方とも、数は多少違ってはいる教材が多く載っているのだが、私はB者を推したい。B者は1年生からずっと6年生まで、いじめの問題や、命についてを1年生からずっと取り上げて、そういう学びを重ねていける。継続してやることで自他ともに大切にできる心というのが育まれるのではないかと思う。

後 藤 委 員 どちらも本当にいい教科書で、いじめの問題にしる、インターネットの問題にしる、1年生からどちらの教科書もしっかり教えていると思う。

それで、2点言いたかったのだが、まず「なんだろうなんだろう」の漫画のページ

について、恐らくこれは99%の児童がそうなのではないだろうかと思うのだが、教科書を見る際、漫画のページは見る。むしろ最初に見る。他のところは読まなくても、漫画のページは本当に見る。勉強のできる子、勉強のできない子も見る。だから、児童にストレートに入ってほしい題材というのは、漫画でどっちの教科書も使っているという印象である。B者は5年生の116ページ、「遊園地でのできごとから」というのがあり、これも漫画表現である。この題材は、他の発行者の教科書で同じ内容を扱っているが、それは漫画表現ではなくて、文書形式である。文章を読んで、そこを先生が解説して学ばせるという形式を取っていたのだが、私はそちらの文章を見たときの印象と、この漫画を見たときの印象というのが微妙に違うのである。漫画の方がより強烈に入ってくるのである。例えばそれはB者の118ページのお父さんがぐっとしたときの顔の眉間のしわだったり、そういうところの印象がより強くメッセージとして出てしまう。だから、漫画を使うのは、ある意味難しいところはあると思う。

それと比較してみると、F者の漫画の使い方というのはとても上手だと思った。先入観を与えない形でソフトに伝えたいことを伝えている。漫画表現の絵とセリフ、吹き出しという表現の持つパワーをしっかりと理解した使い方だと思った。

もう1点、いじめに関してだが、いろいろな教材がある。1年生からしっかり教えている。それはどちらの教科書も取り扱っていると思う。私が、全部の道徳の教科書の中で一番いじめのメッセージとして、これは児童に伝えたいと思ったのは、F者の6年生の52ページにある「『隣人』として寄りそう」という中川翔子さんのコラムであった。短めのコラムだが、ただ一緒にいること、あなたの行動が誰かを支え、あなたの笑顔が誰かを救うかもしれないから、何もできなくていいからただ隣にいてください、それだけで私は救われるのであるというこのコラムが、今の現状のいろいろな問題に対しての解決法となり、救いになるメッセージだと思う。だから、6年生だが、このコラムを本当に私は児童に伝えたいと思った。

また、本当に権利であるとか、「子どもの権利条約」、「世界人権宣言」に触れているのがF者なので、いろいろな児童がいるが、君たちはきちんとこれだけの権利で守られているということをしっかり子どもたちに伝えたい。世界人権宣言というのがあって、あなたたちはこんなにたくさんいろいろな権利を持って、これだけの法律で守られて、世界中でこの地球上どこの国に行っても、君たちはこれだけの権利があり、守られている。それだけのことが、大人の世界だけでもきちんとそういうのをつくっているというのを、しっかりと児童に伝えたいと思う。

花 渕 委 員 内容に関する(3)について内容項目との関連は、「生命尊重」と、「自然愛護」、「親切・思いやり」、この三つという説明が事務局からあった。両方の教科書の一番最後に「教材一覧表」というのが載っていて、そこに内容項目が書いてあったのだが、数の問題ではないとはいえ、週1回の道徳で、B者が全学年でこの三つの内容項目についてはF者よりも多く教材が配当されているということは、紛れもない事実だと思った。この(3)に絞って言えばである。当然、これが多いということは、もしかすると当然ながら他の内容項目が少ないと思うのだが、仙台市で重点としている(3)の三つについては、B者の方が全学年で多かったというのは今確認できた。個々の一つ一つを見ていけば、それはそれぞれあると思うのだが、全体を通して見たとき、この三つに関しては全学年でB者のほうが多いと思った。

山 田 委 員 やはりF者が良いと思っていて、内容的にはどちらも本当に素晴らしい教科書だと

思う。

それで、昨日も全部見直しをしてみたが、なかなか決められないのは確かである。どちらになってももちろん児童にとっては良い教科書だと思うが、どちらか一つに選ぶということであれば、私は先生が教えなくても読むであろう漫画のところに、もしかすると学校に行くと少し気持ちが張り詰めているようなときにほっとするような内容がこういう形で入っているだけでも違うのではないか。そういう気持ちになる漫画だったので、こういったものがところどころに入っているのは記憶に残るのではないかと、私はFがいいかなと思った。

川 又 委 員 先ほど申し上げたように、どちらを推すということがちょっとできない状態なのだが、その上で今少し考えたところをお話しして、実際の学校の現場でどのように教えるのかということだけお伺いしたい。

いじめについての話であるが、いじめはもはや道徳の内容ではなくて、法律的な内容になっていると思うので、いじめについて道徳の時間に授業をしていろいろな議論をしても、もう議論にはならない。個人的な考えを表明することができないものであると思う。例えば他の内容については、自分はこう思うということと、他の児童の意見を聞いて自分の考えを深めていくということはできると思うが、いじめについては、例えば自分はいじめをしてもいいという発言を児童がした際に、先生はそれを禁止しないといけなような内容だと思う。それで、いろいろな児童が、例えば自分はある場合にはいじめをしてもいいというふうに発言をしたときに、それでお互いに何かの考えを深めていく題材にはもはやできないようなものだと思うので、道徳の中でいじめについて、いろいろな考えを深めていくということは、もはやないのではないかと、思う。実際の授業の際に、自分はある場合にはいじめをしてもいいのだというような発言があったときに、先生はどうされるのか。それを禁止するしかないのではないかと、思う。禁止といっても、きちんと考えて、自らその考えを改めるというような方向性はあると思うが、いじめのお話と、いろいろな差別の話、人種的な差別の話、人権の話のところは、道徳的な内容とは切り離すべきところかもしれないと思った。

いろいろと見ると、いじめの内容のところ、ある学年のところではもはや禁止というふうにして、絶対してはいけませんとなっているので、このように考えた次第であるが、どちらを選ぶかということとは別に、いじめという観点でB者かF者というのを比較するようなところは、もはやないのではないかと、思った。

指 導 主 事 いじめに関しての部分について、実際の学校では、どんな授業が予想されるのか。授業づくり訪問で実際にいじめを扱った授業についてご説明する。

道徳科では、決して決意表明をするのが目的ではない。いじめをしない、するではなく、いじめをする側の気持ち、そしてされた側の気持ちというものを考えていながら、内容も思いやり、親切というところで、いろいろな立場で人のいじめに対する立場や考え方について子どもたちの考えを深めていながら、子どもたちがこれからどうしていこうかといったときに、相手の立場を考慮することや、いじめというのはやらぬ方がいいと思うことなど、そのような形で、決して子どもたちに、これからこうする、こうしないではなく、その内面的なものを子どもたちに考えさせていくというようにいじめの授業を学校では実施している。

川 又 委 員 了解した。

教育指導課長 例えば、現実に学級の中でいじめが起きていた、というところで、先生は当然、

いじめはよくない、駄目だということは、これはもう皆が共通して声を上げていかなければならないことであるから、そこにいじめがあれば、いじめはよくないことだ、駄目だという指導を行う。これは当然だと思う。

その上で、ではなぜ駄目なのかというのを考えるのが道德の授業である。いじめを取り上げるとなったときに、道德の中で、例えばいじめはいけないことだという結論が一つあったとして、なぜ駄目なのかというのを考える。これがまさに道德の中で、いじめ防止とか、いじめあるいは人権とか、そういったことについて考えるときの非常に大きなテーマになってくる。

文部科学省などで事例として挙げられているが、例えば傍観者、いじめる側、いじめられる側、それぞれの視点に立って考えるという授業を組み立てる。あるいは、問題の場面において、何が問題だったのか、自分ならばどうするかというのを問うような授業にする。教室の風景などを思い描いたような、例えば絵などを提示して、どこに問題があるのかを皆で考える。役割演技というお話が先ほどあったが、役割演技や、あるいは想定していたような場面をロールプレイで行いながら、仲間外れにする側の気持ち、される側の気持ちを、お互いに考えたり共有したりする。こういった授業を行っていくのが道德の授業ということになる。

教 育 長 B者とF者について、皆様からお話しをいただいた。B者をという方、それからF者がという方がそれぞれあれば、そのほかにどちらも良いのだがどちらかといえばということでF者を推された方、なかなかどちらも良いので判断付き難い方というような状況である。どちらかと言えばという分も含めると、F者の方がということにもなるが、なかなか甲乙付け難いという方もいる。

どちらが多いからとかというようなことで、単純な話でもないのである。B者がいいという皆様はいかがか。

花 淵 委 員 私はB者と言っているのは、中扉に、いじめについて考えよう、命について考えよう、それから自分について考えようと三つ入っていて、例えば5年生であれば、『『いじめ』について、考えよう』というのが37ページにあるのだが、この7番と8番はいじめについて考える学習というのがはっきり児童に示される。それから、5年生の69ページであれば、『『いのち』について考えよう』、次からやる13番の「お母さんへの手紙」というのは、命について考える学習というのが明確に示してある。それから、『『じぶん』について考えよう』と後ろの方にあるが、5年生だと137ページに『『じぶん』について考えよう』の27番、「ありがとうを上手に」は自分について考えるというように、この三つの扉が非常に明確に示されていて、ここはこのことを学習するのだと入れているのは意味があると思う。全学年でこれが入っているのだが、この中扉と、いじめのことであったり、自分のことであったりということが明確になるというのは、学んでいく上でも児童にとっても大変良いのではないかと考えている。

ほかにも、先程内容項目の件も言ったのだが、私としてはどちらかと言えB者が、児童にとって学びが深まるのではないかと考えているので、B者と言わせていただいたところである。

庄 司 委 員 私も、先ほど言ったこととほぼ同じことにはなってしまうのだが、やはりこういった命について、いじめについてという、今花淵委員が言った中扉というのもすごくすばらしいと思うし、またこういった共通のことについて1年生から積み重ねていくということが本当に大切なことだと思う。

そういう何か基本的なことが分かっていないから、いじめというのが、そういうふうにされたらどんな気持ちになるということが理屈ではわかっている、本当に基本的なことというのがわからない。それを1年生からきちんと教材として取り上げているのがB者であるので、私はB者が本当に良いと思う。積み重ねというのは本当に大切なことなので、確実に1年生から積み上げてほしいと思う。

梅田委員 どちらもすごく考えられているので、良い配列にはなっていると思う。あえて違いを探していくことは難しいのだが、今のいじめのことについて言えば、F者のいじめとセットになっている、「いじめを許さない心」というのは、必ずいじめの単元と一緒に深めることになっているのだが、それが学年に応じてこういう側面もある、こんなことをしていないかということが、イラスト入りでわかりやすく学年に応じた内容として示されている。1年生であれば、意地悪をしたつもりではなくても周りが嫌だと思ふことがあること、2年生であっても、友達の失敗を笑ってしまうと、それは嫌だと思ふことにつながるということ、それが最終的に6年生になると、先ほど後藤委員がおっしゃっていた中川翔子さんのコラムにつながるのだが、そういうふうに児童の発達の段階を踏まえながら、児童にいじめというものも一通りではない、いろいろな形があるので、やはりそこを多面的に見ていくとか、自分の心を育てていくということは大事だということをしかりと考えさせる構成になっていると思っている。

私は各学年で、2年生だけはちょっと違うのだが、比較的学年の最初のほうでいじめについての単元が出てきているというのは、それぞれの学年で最初に大切にしたい、考えていくということも含めて、仙台市の児童にとってとても大切なことなのではないかと感じる。

後藤委員 先ほどは見付けられなかったのだが、先ほどの遊園地の漫画に相当するお話がF者にもあった。5年生の160ページの「お客様」がそれと同じお話であった。ここでは権利と義務ということを教えているのだが、要するに思いやりであったり、公共の場所での相手への気遣いであったり、立場が違ったらどう感じるかということだと思ふので、結局、道徳というのはどこも根っこは一緒なのかと思ふ。

F者の5年生160ページ「お客様」は文章形式である。F者では、先入観なく丁寧にこのお話に関しては読ませて、「考えを話し合おう」で、その後、決まりは何のためにあるのだろうということをお話しさせた後、さらにその後で発展させて、では思いやりとは何だろうということまで話を広げてつなげているのである。そこでしっかり話し合っ、思いやりはどういうことかということまで考えさせるという、その発展のさせ方が、同じ題材を使っているのだが、こちらのほうがより深めているという印象がある。

全体に肯定的なメッセージや、優しさなど、そういった道徳的な価値観を上から押しさえつけるだけではなくて、考えていこう、発展させていこう、自分たちで気付いていこうという、明るいメッセージにあふれているところを感じる。児童にはそういう形で触れさせてあげたいと思ふので、F者を推す。

花淵委員 事務局に教えていただきたいのだが、F者で扱っている「いじめを許さない心」というのは全学年に入っているのだが、ここまで含めて1単位時間ということか。

指導主事 例えば5年生の目次2ページを見ていただきたいのだが、「いじめを許さない心」というところで、8、9と振ってあると思ふが、この場合は2時間の授業で扱う。

- 花 淵 委 員 コラムはどうか。
- 指 導 主 事 コラムのところは、補助的、発展的なものになるので、そこは教師が児童の実態に合わせて活用してもいいというところになる。
- 山 田 委 員 F者の目次2ページの右下に、「道徳で考えること」で、「考えよう」、「話し合おう」というのがある。それで、「話し合おう」という項目があるのだが、こちらB者では「考えよう」だけで、その次に「つながる」となるのだが、話し合うところは別にあるのか。それとも、「考えよう」という中に入っているのか。
- F者は、例えば5年生の36ページで、「心を通わそう」など、相手にどう話し掛けるかといった内容は結構あり、さらに、71ページに「話し合うときの心得」というものもあって、話し合うことに力が入っていると思ったのだが、B者ではどこかにそれがあるのか教えていただきたい。
- 指 導 主 事 B者では、最初に「どんな学びをするのかな」というところが、各学年6ページにあると思う。6年生の8ページをめくっていただくと、「ちょっと話し合ってみよう！」が、「道徳の学習を始めよう」というところにあり、ここが話し合いについて深めているところと思われる。そして、各授業の中で「考えよう」、「話し合ってみよう」というところがB者では取り上げているのかと思われる。
- 山 田 委 員 了解した。そうすると、章ごとに、これについて話し合おうではなくて、「ちょっと話し合ってみよう！」はどこで使うのか。
- 指 導 主 事 8ページの「考えよう」という場面で活用すると思われる。
- 梅 田 委 員 今お話のあったところの前の6ページ、7ページの、「どんな学びをするのかな」というところが、B者は「気づく」「考える」「広げる」「深める」という言葉を使っており、「考える」のところで、「友達の考えをよく聞きましょう」や、「自分の考えを話しましょう」というのが、どの学年も出てきている。B者は「考える」という言葉しか使っていないのだが、その場面で発展的に話し合い活動をどの学年も行う。ただ、F者は「話し合おう」という言葉をしっかり入れていて、話し合うということにも重きを置いているというあたりが違うのかと思うのだが、B者はこの挿絵や書いてある言葉を読めば、「考える」というところで話し合うのだろうということかと思っていた。
- 山 田 委 員 私も、この内容を見ていて、「話し合う」というところにF者の方が少し力が入っているということなのかと思った。それで、その「話し合うときの心得」というのが載っていて、相手のことを思いやって言葉を掛けよう、話し合おう、うなずこうなど、そういったことが重要ではないかと感じた。考えは変わっておらず、F者が良いと思っている。
- 梅 田 委 員 今の話で、多分「考えよう」だけで発表させると、「意見がある人はいますか。」「はい」と手を挙げて、「こう思います。」と話す。「こう思います」と言ったことを先生が黒板に板書で書いて、こういう意見があったというところで終わると思うのだが、そこに「話し合おう」というもう一歩踏み込んだステップがあると、「ではこの意見に対してどう思うか」と、出た意見に対して、さらに発展して、「いやでもそれは僕はこう考えるし、これはこうだと思う」という意見が出てそこから膨らむと思う。
- それで、道徳だから全部意見は出したまま、否定はしないというのはもちろんそうなのだが、ただ今、学校現場でディベートというのは大切にされていて、討論するの

である。その討論のマナーというか、そこも発展の大切な学びだと思う。相手の意見を否定するのではないが、その意見を受けて自分はこう考えたというのを発言するという、一歩入り込んだ意思の表明というか、その言語活動とはとても大切だと思うので、ここで「話し合おう」ともう一歩深めているのと、「考えよう」で、発表で止まるというのとでは、また意味が違ふと私は思う。

教 育 長 「話し合おう」という点についてのご発言があった。他にあるか。

B者、F者ということで、大分時間をかけてお話を皆さんからいただいた。今のお話の流れからいくと、F者ではどうかという流れのようであるが、ここで決めただいてよろしいか。

それぞれどちらの本も、本当に甲乙付け難い中でのお話だったと思う。どちらを選択しても、先生方は工夫されてしっかりとした教育をされていくのだとは思いますが、ここまで皆さんからいろいろなご意見を伺っているところからすると、F者ということでよろしいか。

(異議なし)

教 育 長 多くの話をしていただいたので、そういったことを踏まえて、採択理由等について事務局の方でまとめさせていただき、7月25日に決定したいと思う。

【一般図書】

教 育 長 それでは、特別支援学校の小学部・中学部、小学校・中学校の特別支援学級で使用する一般図書、それから文部科学省著作教科書についての審議に移りたいと思う。

教 育 長 特別支援教育課から説明をお願いします。

特別支援教育課主幹 特別支援学校小学部・中学部、小学校・中学校の特別支援学級で使用する一般図書及び文部科学省著作教科書について説明する。

初めに、一般図書についてである。別紙資料1をご覧いただきたい。

別紙資料1の1枚目、表紙に当たる部分だが、令和6年度使用の仙台市立義務教育諸学校用教科用図書に関する意見の集約について(報告)の、2にあるとおり、別紙2にお示しした教科用図書については、教科用図書協議会より、採択方針、採択基準から見て適切であると判断するとの報告をいただいている。

では、別紙2についてご説明する。ただいまご覧いただいた別紙資料1の後ろのほう、33ページの後になるが、別紙2がある。この1ページをご覧いただきたい。

この表の見方であるが、通し番号右の列にある「種目」という用語は、「教科」と同じ意味で使われている。また、種目欄、通し番号2のように「生活/道徳」など2つの種目が書かれている図書がある。これは、「生活」の教科用図書としても、「道徳」の教科用図書としても使えるということを表している。

その右隣の「R6表示番号」の欄であるが、「小」は小学部・小学校、「中」は中学部・中学校を対象とした図書であることを表している。その後に数字が書かれているものは、宮城県教育委員会から示された令和6年度使用学校教育法附則第9条の規定による教科用図書、一般図書選定資料を参考として選定した図書である。

2ページをご覧いただきたい。

2ページの上から3つ目、通し番号37の「小A」などのようにアルファベットが書かれているものは、仙台市教育委員会事務局が独自に採択候補とした図書であることを表している。

ここまでが別紙2についての説明である。

別紙資料9をご覧ください。

別紙資料9は、令和6年度使用学校教育法附則第9条の規定による教科用図書（一般図書）採択候補一覧（案）である。

初めに、新たに一覧に掲載する図書についてである。

1 ページ目に、新規採択候補本について載せている。今年度、宮城県の新規採択候補のうち7冊について、今申し上げた7冊は、今ご覧いただいているページの大きな1の(2) 通し番号で申し上げると25、30、103、そして真ん中、大きな2の(2)の通し番号203、222、258、263についてである。この7冊については、昨年度までに仙台市独自採択候補として既に審議いただいている。そのため、教科用図書協議会では、残りの9冊について協議いただいた。残り9冊は、今ご覧いただいているページの1の(1) 通し番号33、34、35、そして大きな2の(1) 通し番号220、221、そして2の(3) 一番下、通し番号210、224、225、226について、協議をいただいたところである。

別紙資料3をご覧ください。

別紙資料3は、令和6年度使用の仙台市立義務教育諸学校教科用図書に関わる資料、調査研究委員会の報告書である。

1 ページをご覧ください。別紙資料3の1ページである。

こちらには、小学部、小学校用の新規採択候補本についての調査研究委員会の意見が記載されている。

20 ページに移る。同じ資料の20ページをご覧ください。

こちらには、中学部、中学校用の新規採択候補本についての調査研究委員会の意見が記載されている。今ご覧いただいている20ページの「対象」という列、左から5列目にあるが、「対象」の欄にあるように、図書は対象ごとに◎、○、△で評価されている。◎、○は、教科用図書としての使用に適していると考えられる対象を示している。新規採択候補本については、どの図書もいずれかの対象の欄に◎や○が記されている。これらの新規採択候補本について、教科用図書協議会で協議いただき、適切であるとの報告をいただいている。

ここまでが新規採択候補本についてである。

次に、継続採択候補としない図書についてである。

同じく今ご覧いただいている別紙資料3の2ページをご覧ください。

調査研究委員会の報告では、特別支援学校小学部、小学校特別支援学級用の「小10」202シリーズ「たべもの202」は、写真や字体が古く現在の生活では使われていない呼称も多いので、継続して採用するかどうかが検討が必要であると評価され、継続採択候補としないとされていた。このことについて、教科用図書協議会で協議いただいた結果、確かに古いとは思いますが、代わりとなる本を探している段階であれば、見つかるまで残しておくという考え方でよいということで、継続採択候補とすることが適切であるとの報告をいただいている。

次は、別紙資料9の7ページをご覧ください。最終ページである。

こちらには、昨年度までに採択されていた図書のうち、今年度、増刷や重版などの見込みがないことから供給できなくなった図書を載せている。

ここまでが、継続採択候補としない図書についてである。

次に、継続して一覧に掲載する図書についてである。

今ご覧いただいている別紙資料 9 の 2 ページから 4 ページまでが、小学校あるいは特別支援学校の小学部用である。続けて、5、6 ページが、中学部、中学校用となっている。これらの図書についても、調査研究委員会の報告を踏まえ、教科用図書協議会より、継続して一覧に記載することが適切との報告をいただいている。

次に、文部科学省著作教科書についてご説明を申し上げます。

別紙資料 10 をご覧いただきたい。

令和 6 年度使用仙台市立特別支援学校及び特別支援学級教科用図書採択候補一覧（一般図書を除く）文部科学省著作教科書一覧であるが、今年度は文部科学省著作教科書のうち、特別支援学校小学部用が採択の対象となっている。書名に☆が 1 個から 3 個ついており、☆の数が増えるほど理解の早い児童向けの内容となっている。

こちらについて、調査研究委員会における調査研究の結果、使用に適していると報告され、その後の教科用図書協議会でも教科書として適切であるとの報告をいただいている。特に、令和 6 年度から使用できるようになる生活の教科書については、イラスト中心というだけではなく内容がよい、特別支援学校学習指導要領の生活科の内容が網羅的に扱われているので、初めて特別支援学校・学級を受け持った教員も、目次のテーマを見るだけでどこを扱っていけばよいか参考になるといった意見もいただいている。

以上ご説明した協議を経て、最初にご覧いただいた別紙資料 1 の別紙 2 の令和 6 年度使用学校教育法附則第 9 条の規定による教科用図書（一般図書）一覧及び文部科学省著作教科書小学部用一覧を作成した。一般図書の継続採択候補本が 162 冊、新規採択候補本が 9 冊の合計 171 冊、文部科学省著作教科書小学部用 13 冊が記載されている。それぞれの図書については、この後の閲覧時間に手に取ってご覧になり、内容をご確認いただき、後ほど採択してよろしいか協議いただきたい。

教 育 長 それでは、今最後にお話があったように、確認の意味で閲覧の時間を取りたいと思う。10 分ほど取りたいと思うので、7 時 17 分から再開したいと思う。

（図書閲覧 午後 7 時 07 分～午後 7 時 17 分）

教 育 長 それでは、再開する。今、実際の図書も見ていただいたが、ご質問はないか。
（質疑なし）

教 育 長 それでは、特別支援学校及び特別支援学級の教科用図書は、別紙資料 1 の別紙 2、それから学校教育法附則第 9 条の規定による教科用図書（一般図書）一覧及び文部科学省著作教科書一覧に示された図書についての審議ということになるが、報告では全て適当であるということであったが、報告で示された図書を全て採択ということではよろしいか。

（異議なし）

教 育 長 ご異議がないようなので、ただいまご審議いただいた内容を採択理由として事務局で整理した上で、7 月 25 日に最終的に決定したいと思う。

以上で、臨時教育委員会を終了する。

4 閉 会